

時局に関する図書目録
帝國圖書館編

733
311

733-311



1200501590269

Kodak Gray Scale

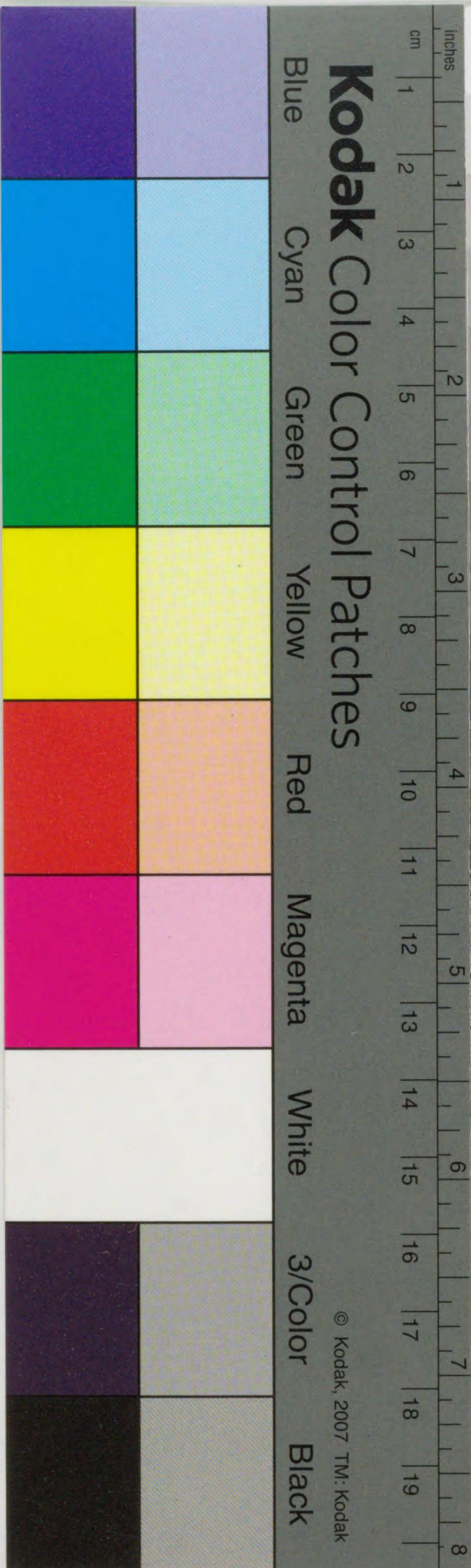
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



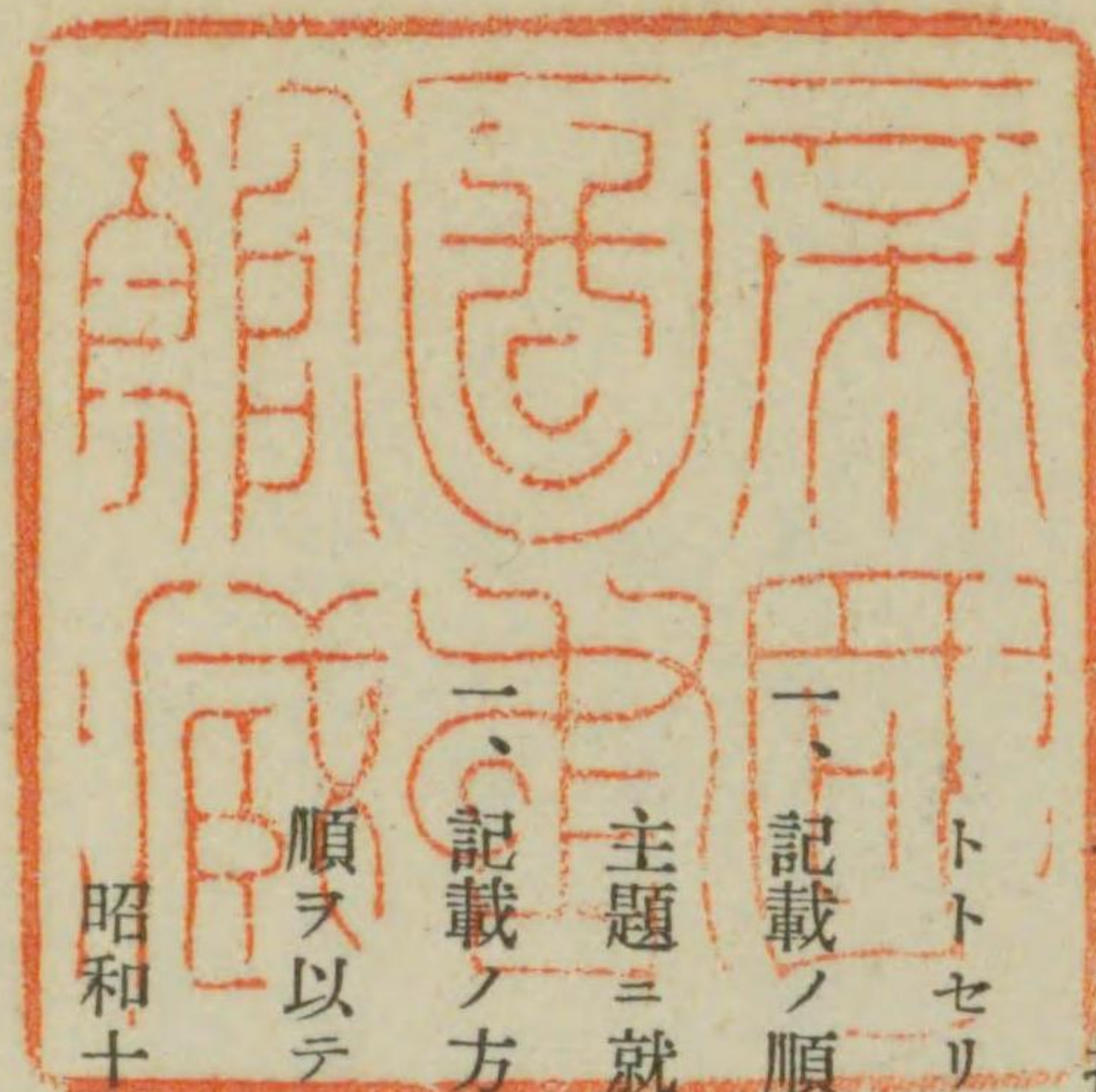
733
311

和十二年十二月

時局に關する圖書目錄

帝國圖書館

733
311



凡例

一、本目錄ハ主トシテ昭和七年以降十二年十一月末日迄ニ刊行セラレシ圖書中時局ニ關係アルモノヲ採擇セルモノナリ但尙多少ノ遺漏ナキヲ免レズ之ガ補訂ハ次輯編纂ノ機會ヲ待ツコトトセリ

二、記載ノ順序ハ目次掲出ノ項目ニ大別シ同一項目中更ニ一般主題ヲ先ニ特殊主題ヲ後ニ同一主題ニ就テハ刊行ノ順序ニ從ヘリ

三、記載ノ方法ハ第一行ハ書名並ニ著編者名ヲ第二行ハ刊行年、判型、頁數、發行所、價格ノ順メ以テ掲ゲ第三行以下ハ内容目次トス

昭和十二年十二月二十二日

帝國圖書館





目次

| | |
|----------|----|
| 支那事情 | 一 |
| 支那事情一般 | 一 |
| 地誌・紀行 | 四 |
| 民族・社會 | 五 |
| 政治・外交 | 七 |
| 經濟・產業・交通 | 一四 |
| 教育・文化 | 二〇 |
| 國防・軍備 | 二二 |
| 北支及邊疆事情 | 二二 |
| 支那事變 | 二五 |
| 國際情勢 | 二九 |
| 非常時經濟 | 三六 |
| 國防及軍備 | 四〇 |
| 國民精神 | 五 |

時局に關する圖書目錄

支那事情

現代大支那 (支那事情一般) 濱田純一著
昭和六 菊判 一五三六頁 現代大支那刊行會 一三・〇〇
總論 地理 行政 興殖産業 運輸交通 教育文學 宗教 風俗 各省
通誌 名勝古蹟
支那及滿蒙 世界現狀大觀編輯部編
昭和七 菊判 四七三頁 新潮社 一・五〇

中華民國大觀(大西齋) 黨治と絶えざる分裂(松井等) 打倒を標語とし
て(松井等) 支那の經濟と財政(木村増太郎) 近代化の途上にある産業
(根岸信) 支那陸軍の現勢(重藤千秋) 統一の不可能な支那海軍(尾崎
剛) 支那鐵道を確める(水野梅曉) 惠まれたる水運(油谷恭一) 支那
の通信網を見る(中山龍次) 支那の社會・思想(長野朗) 特異な宗教と

支那事情—支那事情一般

迷信(中野江漢) 支那現時の教育(野口援太郎) 中華民國の現代文學
(榛原茂樹) 列國の對支文化を觀る(宇治田通義) 自誇の文明と保守的
風俗(中野江漢) 中華民國の運動界(野津謙) 現代支那に躍る人々(松
本鎗吉) 世界視聽の的滿洲(長岡克曉) 滿洲の社會相(古澤幸吉) 滿
洲に於ける鐵道問題(永雄策朗) 內蒙古概觀(鳥居龍藏) 世界の秘密西
藏(河口慧海) 呼倫貝爾と新疆・青海(布利秋)

支那と宣傳 陸軍省新聞班編

昭和七 四六判 二二頁 陸軍省新聞新聞班 非賣
緒言 支那の國民性 支那の社會事情 地理的關係 支那の宣傳組織
結論

支那讀本 後藤朝太郎著

昭和八 菊判 三一二頁 立命館出版部 一・二〇
緒言 支那經濟生活の特徴 支那の歴史地理 支那の交通文化 支那の
資源と勤勞 支那農村生活 支那都城と山間僻地 支那土豪と細民 支
那宗教と學藝 支那の娛樂と家庭 支那世相の表裏 支那軍閥と政客
支那の社交と外交 結び

再認識下の支那(世界の明日)

中山 優著 昭和八 四六判 二〇三頁 平凡社 豫約
總論 支那歴史に於ける國家統一の問題 辛亥革命後の十五ヶ年 國民黨權下の支那の現状 共產黨及び共產軍 支那の今日と明日 明日の諸問題

問題の支那?

後藤朝太郎著 昭和八 菊判 三〇四頁 立命館出版部 一・二〇
日支提携 支那はどんな處 支那の民情風俗 支那に見る自力共榮法 支那の認識法 地方住民の心 民國人の外交的教養 支那懐古物語 支那現代の青年 民國女性を語る 新支那の若き女性 親しむべき隣邦大陸の情趣 日支善隣の將來

轉換期支那の全貌

濱田峰太郎著 昭和八 四六判 三三二頁 ブロック經濟研究所 一・〇〇
支那問題の基調 支那の統治形態とその特異性 支那統治形態上に於ける種々相と解剖 支那のソヴェート化及び現勢 支那は何處へ行く

隣邦の内面觀

坂西利八郎著 昭和一一 四六判 四七四頁 日支問題研究会 二・〇〇
支那と滿洲との考へ方 現代支那研究の態度 支那政局觀察の本筋 日華兩國國民相互に不安がある 隣邦に對する日本人を語る 要人中に日本

最新支那要覽

東亞研究會編 昭和一一 四六判 五四九頁 東亞研究會 二・〇〇
國民黨 政治 外交 國防軍事 教育 宗教 財政 金融 貿易 原始産業 工業 交通 列國の對支投資 浙江財閥 華僑 共產軍 邊疆 華北特輯

移り行く支那(朝日時局讀)

東京朝日新聞東亞問題調査會編 本第一卷 昭和一二 四六判 二九九頁 朝日新聞社 豫約
支那の内政 支那の外交 國民黨を中心に 國民政府の建設的諸工作 軍事及び國防 邊疆問題 支那經濟の現勢 共產黨の諸問題 支那における列強

近世中國史

風間 阜著 昭和一二 菊判 三六九頁 叢文閣 三・〇〇
日清戦後の革新運動 革新より革命 北京統一政府の成立 第二次革命 洪憲帝政と第三革命 列強の對支活動 所謂「二十一ヶ條」交渉(中略) 滿洲・上海事變と其の後の局勢 支那邊疆と列強の勢力 獨立政府の樹立と崩壞 他二十六章

新支那の誕生

太田宇之助著 昭和一二 四六判 五二五頁 日本評論社 二・五〇
序説 統一の大勢と日本 新支那を見る語る 日支提携への道 東亞に相関ぐ兩國 新支那の建設へ 支那と列強との關係

支那事情—支那事情一般

理解の傾向 新しく擡頭した新生活運動 隣邦の政局と思想の動き 滿洲國人に不満を聴く 隣邦争亂の内面觀 支那時局の理解と其收拾策 日支關係の因縁 昭和八年五月停戰協定直後の動き 日支親密の消長と支那「現政局」に對する一考察 支那民族と大和民族の二大使命 隣邦政局の紛糾と在支邦人 日支提携の根本義と「滿蒙」 民國十九年の亂 歐米文化心酔の弊 在支二十有餘年 京津から上海へ

現代支那概論 動かざる支那

矢野仁一著 昭和一一 四六判 三〇八頁 目黒書店 二・三〇
支那の社會の固定性 支那の歴史における近代と古代 支那の共和政治と帝政の遺産 支那の帝政時代と共和政治時代 支那に於ける外國人の治外法權 支那に於ける治外法權の起原と其の撤廢の問題 王道政府の理論と實現 冀東政府は宜しく王道政治の實驗場たるべし 支那の眞の統一と日本の對支外交 支那内亂の慘禍と國民革命の成否 三民主義と露西亞の支那援助

現代支那概論 動く支那

矢野仁一著 昭和一一 四六判 三〇三頁 目黒書店 二・三〇
支那の邊疆問題 歷史上より觀たる蒙古問題 歷史上より觀たる西藏問題 歷史上より觀たる新疆 歷史上より觀たる雲南邊疆 支那の土匪 支那の秘密結社教匪と會匪 北支那の問題と支那の本質問題 北支那の自治と其の發展性 歷史上より觀たる北支那問題 西洋諸國の對支外交と支那の外交 蒙古問題最近の變局

支那の再認識

長野 朗著 昭和一二 四六判 四一四頁 大都會房 一・八〇
支那の全貌 支那の政治 問題の北支 富源中支那 南國南支那 支那の輿地 支那の邊境 支那の社會 支那の進歩 支那現下の時局 最近列強の活動 支那の抗日

支那問題の基礎知識

謝 國 城著 昭和一二 四六判 二一九頁 哲刀閣 一・〇〇
民國略史 國民黨 國民政府 外交 國防軍事 經濟 文化 地文 問題特輯

今日の支那

小倉章 宏著 昭和一二 四六判 四九二頁 東興社 一・五〇
支那は伸びる 今日支那 支那に於ける列國の活動 日本と支那 明日の支那を想ふ

支那の知識(時局知識)

室伏 高信編 清澤 冽編 昭和一二 四六判 三三三頁 青年書房 一・三〇
抗日支那の感觸(高木隆郎) 北支事變の經緯(太田宇之助) 北支政權論(吉岡文六) 日支國交の今明日(大西齋) 抗日人民戰線運動(村上知行) 抗日運動の指導者(原勝) 中國青年の現状と青年運動(高山翹) 轉換期支那の根本問題(尾崎秀實) 支那は統一されるか(有吉明) 蔣介石論(宮崎龍介) 蔣介石の資金綱(高木隆郎) 支那の再建(胡適) 支那財閥

支那事情—支那事情一般

と國際資本(原勝) 支那に於ける英國の活動(太田宇之助) 胡適に答ふ(芳澤謙吉) 中國の出路と中日關係(陶希聖) 民族復興運動(蔣介石) 抗日支那をどうするか座談會 北支事變の背景(波多野乾一)

北支事變と支那の真相 井上謙吉著

北支とはどんな所か 豫想される南京政府の抗日戦 抗日作戦計畫の實相 邊疆の狀態 支那の政治機構 支那の軍隊 支那人は日本をどう見てゐるか 歐米列強の對支政策と經濟的活動 列國の支那駐屯軍現有勢力 日本留學生の本國に於ける地位及活動 北支事變の原因 支那の國民性 地方の特性 支那の排日 排日の原因 支那は日本と戦ひ得るか

支那を屈するには 石丸藤太著

排日から抗日戦へ 支那を屈するには 英米露の動向 傳統の誇り 日支提携へ

支那讀本 長野朗著

支那の土地と人 支那の社會 支那の政治 財政と金融 支那の産業 交通支那の教育と宗教 支那と列國 華僑

嵐に立つ支那 尾崎秀實著

支那と列強 日支關係 支那の政治と經濟

支那風土記 後藤朝太郎著

支那風土の魅力 支那民族の生活力 支那風土の地理的觀察 南東支那を描く 北支を描く 西支を描く 東支の再檢討 支那風土記から生れた結論

支那滿洲風土記 クレツシイ著 高垣勳次郎譯

地理概観 地勢・即支那の舞台裝置 氣候・人間活動の鍵 四萬年の百姓 支那の天然資源 世界との接觸 北支那平野 黄土高地 山東・遼東及熱河の山々 滿洲平野 東部滿洲の山脈 興安嶺 中央アジア草原 及沙漠 中央山脈地帯 揚子江平野 四川省赤盆地 南揚子江山地 東南海岸地帯 兩廣の山地 西南台地 西藏邊境地

上海より巴蜀へ 神田正雄著

卅年目の巴蜀への旅 古きを温めて 入蜀案内

支那遊記 室伏高信著

支那遊記 支那は敵か味方か

支那地名集成 外務省情報部編

〔英漢對照 和漢對照 〕よりなる支那地名の讀み方

支那事情—民族・社會

最新支那大觀 誠文堂新光社編

昭和一二 四六判 七一頁 誠文堂新光社 六・〇〇
地方的特徴 沿革 民族と文化 文藝 社會政治 家族制度 風俗習慣 産業 貨幣制度 庭園 日本との關係 中國の中原 甘肅 陝西 山西省 河南 山東地方 北平・天津附近 鐵道沿線 三大石窟 萬里の長城 南支總説 上海 江蘇地方 浙江地方 福建地方 廣東地方 廣西地方 安徽地方 江西地方 湖北地方 湖南地方 新舊交通機關 四川地方 西康地方 雲南地方 貴州地方

支那の將來と我帝國の使命 大谷光瑞著

支那とは何んな國乎 支那の國民性 支那の將來 支那の真相

中國年鑑 一九三六年版 上海日報社編

昭和一〇 四六判 六五四頁 上海日報社調查編纂部 銀二弗

(地誌・紀行)

赤裸の支那 多賀宗之著

昭和一七 四六判 四〇五頁 新光社 一・二〇

最新支那地理 訂三版 西山榮久著

昭和一七 菊判 六〇八頁 大阪屋號書店 五・八〇

現地に支那を視る 朝日新聞社編

昭和一〇 四六判 二二四頁 東京朝日新聞發行所 六・〇
支那現勢の展望 北支視察記 上海から南京へ 廣東・廣西を視る 附(當代支那人物列傳)

滿洲から北支へ 神田正雄著

昭和一〇 四六判 三七〇頁 海外社 一・五〇

躍進支那を診る 神田正雄著

昭和一〇 四六判 三五三頁 海外社 一・五〇

(民族・社會)

支那心理の解剖 原惣兵衛著

昭和一七 四六判 一二五頁 東京書房 五・〇
民族性 支那思想界の檢討 天命觀及び其他 演繹論語及び其他 殘虐性及び其他 家族制及び其他 支那社會階級の心理 支那民族性より見たる我對支政策

支那の社會組織と家庭制度 (東亞研究講) 座第四七輯

青柳篤恒著 昭和一七 四六判 四九頁 東亞研究會 二・〇

緒言 漢族の移住と農業の生育 農業の發達と治水の完成 氏族部落の

支那事情—民族・社會

獨存性解消 勞働の強制と耕地の均分 宗子受田と家族制度 宗法と封建政權の保証 貴族の凋落と新興地主階級 郡縣制度と君主專制政治 宗法に固められる縣村自治 商人及び手工業者の職業自治

支那社會經濟史

森谷克巳著

緒論 原始時代「未熟なる」封建社會の成立時代 官僚主義的封建制の成立時代 均田制の成立時代 官僚主義的封建制の發展時代 官僚主義的封建制の完成とその崩壊時代

現代支那人精神構造の研究

大谷幸太郎著

昭和一〇 菊判 八七八頁 東亞同文書院支那研究部 五・〇〇
支那人精神構造と支那國民性 現代支那人性格觀照の先蹤 現代支那人の精神構造

支那人口問題研究

(人口問題叢刊第一六輯)

飯田茂三郎著

昭和一〇 菊判 二二五頁 人口問題研究會 六・六〇
支那人口思想 支那歷朝の人口統計 人口問題の一現象としての支那歴史 支那人口の構成 支那人口と來住移住 支那に於ける過剩人口 支那人人口問題對策

支那社會史講話

陶希聖著
荒尾久譯

昭和一〇 菊判 五〇八頁 學藝社 三・五〇

現代中華帝國人名鑑

昭和一二 二年版 外務省情報部編

昭和一二 菊判 八五〇頁 東亞同文書業務部 四・五〇
〔日本語及支那音索引を附す〕

英文中國及滿洲國人名便覽

タイムス出版社編

昭和八 四六判 二四五頁 タイムス出版社 一・五〇
〔人名之部、地名之部に分ち、五十音順ABC順の二様に配列す〕

(政治・外交)

支那近代の政治經濟

日華實業協會編

昭和六 四六倍判 一〇四二頁 外交時報社 六・〇〇
財政經濟編(財政概説 中央財政 地方財政 國債 國民政府の財政 幣制及金融 ケメラ一案に依る財政改革問題 初期貿易關係 國民政府の産業政策と産業の現勢 交通通信關係 列國の對支投資企業 支那に於ける外貨排斥運動) 政治外交編(政局變遷略史 中國々民黨の發展と其政治活動 中國國民黨實體と黨治の現狀 反國民黨運動 國權恢復運動の勃興 最近の露支外交關係 革命外交の出現と其活動 關稅自主權の恢復と通商條約の改訂 治外法權撤廢問題 在支外國政治勢力撤廢問題 國民政府の重要國際關係諸件 滿蒙問題)

支那政治組織の研究

及川恒忠著

昭和八 菊判 一一三二頁 啓成社 六・〇〇
地理概説 民國政治史篇 民國憲法史篇 民國國會史篇 民國政黨史篇
支那事情—政治・外交

如何に支那社會を觀察するか 封建制度か資本主義か 士大夫身分と族制と宗教及び科擧 科擧と學制 士大夫身分のイデオロギー 支那問題解決の基點

支那社會研究

橘

樸著

昭和一一 菊判 六〇四頁 日本評論社 四・五〇
支那社會の階級 支那農村及び農民問題 支那資本家の特殊性 支那勞働者の特殊性 支那官僚の特殊性 支那家族制度の動態的考察

支那社會の測量

圓谷

弘著

昭和一一 菊判 三六八頁 有斐閣 二・五〇
支那の社會 南船北馬 滿洲 臺灣

支那の秘密結社

(東亞研究講座第五輯)

馬場春吉著

昭和八 四六判 六二頁 東亞研究會 三・五
はしがき 白蓮教 義和拳教 哥老會 天地會 在理教

戰苑支那の習俗

(現代支那全集第一卷)

長野朗著

昭和一一 四六判 三三〇頁 坂上書院 一・八〇
支那の全貌 政治と民衆 支那の階級 支那人の外交術 支那人の經濟思想 支那人の習癖 支那人の享樂性 支那の民衆心理 支那の社會性 支那の將來性 抗日の支那に就て

民國政治組織篇 民國司法制度篇 民國陸軍篇 民國海軍篇 民國財政史篇 附(地名字典〔ローマ字對照漢字〕)

現代支那の政治機構とその構成分子

濱田峰太郎著

昭和一一 四六判 三八四頁 學藝社 二・〇〇
まへがき(統治階級の性質 支那の軍閥ファッショ化の特徴 支那政局に於ける各派系) 中央派の形成とその發展及構成分子(實力派 文治派 藍衣社の正體とその構成分子) 西南派の形成とその發展及構成分子(廣東系 廣西系) 汪精衛派及び太子派の形成とその構成分子(汪精衛派 太子派) 馮玉祥系及び山西派の形成とその構成分子(馮玉祥系 山西派) 反國民黨各派の陣容とその構成分子(生産黨派 舊十九路軍系 文化陣に於ける各派 國家主義派) むすび

現代支那の政治と人物

波多野乾一著

昭和一二 菊判 五六二頁 改造社 二・五〇
上海事件後の政治情勢 福建革命の輪廓と動向 五全大會まで 支那ファッショステイと蔣介石 北支那局勢の考察 日支關係を検討す 中國共產黨軍の研究 高漲する抗日聯合戰線 西安事件と國共兩黨の再婚

支那—機構と人物

齋藤

剛著

昭和一二 四六版 三六〇頁 太陽閣 一・六〇
蔣介石政權確立まで 蔣介石論 支那に於けるファッショ運動と人物 抗日人民戰線運動と人物 支那共產黨軍の解剖 蔣介石政權の軍事機構と人物 附録(國民黨及び國民政府重要職員 事變關係重要政治經濟日誌)

中華民國政治勢力の現状

(調査資料第一輯) 東洋協會調査部編 昭和一〇 菊判 三一頁 東洋協會 非賣

孫文主義

上、中、下 外務省調査部第三課譯 昭和一〇 菊判 外務省調査部 非賣
上(一四七頁) 三民主義 建國方略 五權憲法 國民黨政綱 國民政府建國大綱 地方自治開始實行法
中(一〇六二頁) 革命方略 講演及談話
下(九一五頁) 宣言 雜著 電文 書翰 遺書

中國國民黨の輪廓

陸軍省調査班編 昭和八 四六判 三四頁 陸軍省調査班 非賣
國民黨發達の沿革 國民黨の指導原理 國民黨の組織 國民政府と國民黨の關係 國民黨内の思想的分野 反國民黨運動 結言

蔣介石と現代支那

吉岡文 六著 昭和一一 四六判 二五〇頁 東白堂 一・五〇
蔣介石の全面的解剖 現代支那の考察 北支事件と蔣介石 日支外交の檢討

蔣介石

石丸藤 太著 昭和一一 四六判 三八六頁 春秋社 一・五〇
〔西安事件までの生涯を記す〕

支那の排日運動

(東亞研究講座 座第四六輯) 波多野乾 一著 昭和七 四六判 四三頁 東亞研究會 三〇
反日運動の意義 排日貨運動概況 排貨に因るわが損害 反日手段の種類相 反日運動の將來と對策

支那の抗日記録

姫野徳 一著 昭和一一 四六判 一四七頁 日支問題研究會 六五
兩國民に訴へる 血で綴る排日の全貌 最近の不幸を語る 日本國民に訴ふ 日本民衆支那を解せず 兩國青年層に呼びかく 日支交渉記録 蔣氏の容共再轉 結論

抗日支那の真相

(中國調査資料第一輯) 中國通信社編 昭和一二 四六判 二五八頁 平野書房 一・二〇
支那秘密結社の新情勢 支那各界救國聯合會の動向及び宣言 綱領 資料 上海に於ける白・赤露人の情勢

抗日論

如何にして抗日戦は準備されたか? 植村鷹千代譯編 昭和一二 四六判 三一九頁 橋書店 一・三〇
時局に對する八大宣言(胡漢民) 抗日戦争は不可避(馮玉祥) 對日抗戰の急務(張學良) 將兵に告ぐ(楊虎城) 民族復興と抗日戦(李宗仁) 如何にして抗日を準備するか(陳紹禹) 章乃器等に與ふ(毛澤東) 親日か 支那事情—政治・外交

千萬民衆に訴ふ

附 西安監禁半月記 蔣介石 石著 村田孜 郎譯編 昭和一二 四六判 三五六頁 河出書房 一・五〇
西安監禁半月記 政治・經濟 教育・思想 軍事 時事 新生活運動

中華民國憲法確定草案

宮澤俊義 著 田中二郎 著 昭和一二 菊判 三九三頁 中央大學 四〇〇
緒論(憲法確定草案の特色 中華民國制憲問題の由來) 中華民國憲法草案(憲法草案宣布の經過 總綱 人民の權利義務 國民大會 中央政府 地方制度 國民經濟 教育 憲法の施行及び修正)

華僑ノ現勢

外務省通商局第二課編 昭和一〇 菊判 一二八頁 外務省通商局 非賣

全支排日運動の根源と其史的觀察

陸軍省調査班編 昭和七 四六判 九二頁 陸軍省調査班 非賣
緒言 現代支那の指導原理と排外運動 排外特に排日運動の教育並訓練 排日運動の歴史 排日運動に關する觀察 附(支那の對日不法行為一覽)

? 聯蘇抗日か?(章乃器) 日支關係の先決條件(胡適) 對外政策の基調(蔣介石) 軍事的統一の急務(何應欽) 日本は敵か味方か(除道鄰) 生の原理(陳立夫) 三自三寓政策の眞髓(白崇禧) 胡適の主張を駁す(方直) 對日作戰宣言と基本綱領(宋慶齡) コミンテルン大會日本問題決議中ソ及び中國共產黨の抗日救國宣言 蔣介石への公開狀(全國各界救國聯合會) 三中全會宣言 中國共產黨の國民黨宛妥協提議

支那に於ける國民主義運動と抗日運動の全貌

(時局資料) 內閣情報部編 昭和一二 菊判 二三頁 文部省 非賣
概説 國民主義運動及抗日運動の淵源と趨勢 滿洲事變前後に於ける國民主義運動及抗日運動の展開とその全貌 支那事變と抗日運動

支那に於ける抗日團體とその活動

外務省情報部編 昭和一二 四六判 四四頁 外務省 非賣
概説 反日運動第一期(單純ボイコット時代)に於ける抗日團體とその活動 第二期・運動政治化の時代 第三期・國民黨領導開始時代 抗日運動第一期・國民黨及び國民政府領導時代 第二期・共產黨領導時代即ち抗日人民戰線時代 第三期・全國的抗日態勢時代

排外支那の解剖

貴島外交研究室編 昭和一二 四六判 一六一頁 國際經濟研究所 一・五〇
支那の排外思想 支那の不統一と無秩序

最近支那紙の對日論調 (調査資料) 東洋協會調查部編

昭和一二 菊判 一〇二頁 東洋協會 非賣

極東の形勢と支那紙の認識 日支外交關係と支那紙の論調 日英交渉と支那紙の觀測 日支經濟提携に對する支那紙の批判 日本の政局に對する支那紙の觀察 日本の貿易に對する支那紙の憶説 日本の南進政策と支那紙の論評 日本新内閣成立に對する支那紙の論評

支那 排日讀本 普及版 東亞經濟調查局編

昭和六 一五三頁 東亞經濟調查局 四五

抗日支那の究明 (現代支那全集) 長野 朗著

昭和一二 四六版 三六二頁 坂上書院 一・八〇

排日問題 (緒言 排日の原因 排日の目標と永續性 排日の實行機關 排日の方法 排日の損害 排日と國貨提唱) 抗日運動 (排日より抗日へ 抗日の經過 抗日の要素) 日支共存 (日支感情の融和 支那の自主權恢復 日支の共存)

打倒 日本 (支那排日教材集) 保々 隆 矣編

昭和六 四六判 二〇五頁 邦文社 八〇

支那新聞排日ぶり 大泉 忠 敬編

昭和六 四六判 一九三頁 先進社 五〇

共產黨及コミンテルンの活動 抗日人民戦線とコミンテルン 北支事變とコミンテルン 中國共產黨 共產軍の活動

近世支那外交史 稻 坂 結著

昭和四 菊判 四二〇頁 明治大學出版部 三・五〇

鴉片戰爭 露國の極東經營 長髮賊の内亂 アロー號事件と對外關係の推移 外十七章よりなり九國條約成立までを含む

最近支那外交史 矢野 仁 一著

昭和五 菊判 九七〇頁 弘文堂 八・五〇

ポルトガル人の支那渡來 ポルトガル人の浙江福建に於ける通商植民 外七十章よりなり天津條約前後までを含む 但し日支外交史は含まず

支那外交史論 植 田 捷 雄著

昭和八 菊判 二四八頁 巖松堂 二・二〇

緒論 支那外交史 門戶開放と勢力範圍の意義

日清役後支那外交 (東方文化學院京都部) 矢野 仁 一著

昭和一二 菊判 七三〇頁 東方文化學院京都研究所 非賣

下關條約前清國の諸外國に援助を懇請せし顛末 下關條約後の批准換約期限延緩問題 遼東還附條件減讓問題 清國と露西亞と秘密同盟條約を締結するに至りし事情 露西亞の旅順口大連港を占領しこれを租借する

支那事情—政治・外交

軍事行動を中心としたる報道・宣傳 國際聯盟及び外國輿論に關する報道・宣傳 滿洲事件勃發と共に澎湃として起つた抗日輿論の聲

支那に於ける共產黨の活動 陸軍省新聞班編

昭和七 四六判 二三頁 陸軍省新聞班 非賣

序言 蘇國の對支赤化政策の経緯 支那共產黨の梗概 支那共產黨の活動 外蒙の赤化 北滿に於ける共產黨の活動 時局發生後滿洲に於ける共產黨の活動 結言

支那共產軍の近況に就て 陸軍省調査班編

昭和八 四六判 一七頁 陸軍省調査班 非賣

中國共產黨臨時蘇維埃政府の革命新方略決議と共產黨の宣言發表 昨秋以後に於ける共產軍活動の概況 中國民權保障同盟の組織 華北共產黨の現況 共產軍討伐の狀況 蔣介石と共產黨との妥協説に就て 支那共產黨運動の將來

支那に於ける共產運動 日本外事協會編

昭和八 四六判 四〇一頁 日本外事協會 一七〇

緒言 共產運動の發展と政治的事情 中國共產黨史 勞動運動 農民運動 共產運動とロシア

支那に於けるコミンテルンの活動 (時局資料) 内閣情報部編

昭和一二 菊判 二五頁 文部省 非賣

コミンテルンの淵源 中國共產黨全盛期と蔣のクーデター 其後の中國に至りし當時の外交上の紛糾 義和拳匪亂當時の東三省擾亂及び露西亞の東三省占領

對支問題總決算 板垣 守 正著

昭和七 四六判 二二〇頁 内外社 七〇

序論 支那 國際聯盟 英國 米國 ロシア 參考資料

支那は何處へ? ニアリン グ著

昭和七 四六判 三〇九頁 同人社 一〇〇

一八四〇年の支那 列國と支那 ソビエツト同盟の登場 一九二五—六年に於ける支那 支那のための抗争 世界的原動力としての支那

最近支那國際關係 三版 齋 藤 良 衛著

昭和七 四六判 二三三頁 國際聯盟協會 一二〇

國民革命進行中の民族運動と國際關係 北伐完成後の國際關係 露國の亞細亞への再歸

時局國際法論 立 作 太郎著

昭和九 菊判 四六九頁 日本評論社 四〇〇

日支紛争と國際法上及條約上に於ける戦争 日支紛争と國際聯盟規約 リットン報告書及聯盟總會報告書 日支紛争と不戰條約 フーヴァー主義 日支紛争と九國條約 支那及滿洲に於ける門戶開放主義 自衛權及自己保全權 特殊國と國際法規及國際條約の適用 支那に於けるボイコ

ツト 經濟封鎖及武器輸出禁止 滿洲國の承認 滿洲國の分離と支那の條約及契約の繼承 聯盟退却の意義及聯盟退却に關聯する諸問題 南洋諸島の委任統治問題 國際法上の宗主権 附(日支紛争と國際聯盟) ツトン報告書概要 ツトン報告書に對する帝國政府意見書 聯盟總會の報告書 日本政府陳述書の概要)

列國の對支投資 上、中、下

東亞經濟調查局譯

昭和九 菊判 東亞經濟調查局 非賣
上(二五五頁) 總論(外國の投資及び支那の國際經濟に金融的地位)
中(四四九頁)・下(七七九頁) 各國編

國際戰を呼ぶ爆彈支那

東京日日新聞社編
大阪毎日新聞社編

昭和一〇 四六判 一七三頁 東京日日新聞發行所 三〇
對英賣媚轉向の蔣介石 英米露の觸手 苦悶の南京政府 躍る反日派人
物幣制改革問題

日支外交六十年史 第一至四卷

長野 動著

昭和八—一一 菊判 建設社 各二・五〇
第一卷(昭和八 三七九頁) 古代關係に遡りて 日支初めて修條約を締結す 臺灣の侵略朝鮮交渉の開始 支那正式に日本に通使す 琉球列島の併吞 朝鮮事件 清韓商務規約 甲申の變と日清衝突 天津條約の締結
第二卷(昭和八 三二九頁) 巨文島事件 露韓結託の空騒ぎ 日清戰爭
第三卷(昭和九 三四一頁) 廣島交渉の石油 馬關媾和成約 議論沸騰

國際政治から見た日支の抗争

田中直吉著

昭和一二 四六判 二五八頁 立命館出版部 一・五〇
北支事變と國際關係 北支の權益・資源・貿易 支那の統一過程と國共合作 支那に於ける政治的勢力の分析 抗日民族運動の進展 支那の軍備と國防經濟 支那の作戰計畫と戰時財政 危機を孕む日滿關係 北支に於ける國際的對立 支那をめぐる列強の爭覇戰 日支の抗争と世界の動向

日本は支那を如何にする

中野正剛著

昭和一二 四六判 二五七頁 育生社 一・二〇
日本は支那をどうする 東亞政治の悲劇 昭和十年の日支問題 昭和十一年度の日支問題 動亂支那を繞る國際問題

國際關係から見た支那(支那問題叢書)

尾崎秀實著

昭和一二 四六版 二六一頁 第二國民會出版部 一・〇〇
國際關係から見た支那(列國の對支政策 支那に於ける列強外交戰の再改 支那の幣制改革と日支の對立 英の新對支政策 東亞に於ける戰爭の危機 北支に錯綜する列強の利権 ソ支不可侵條約締結 日ソ國防力概説) 支那の變貌(支那は果して赤化するか 彼等上海南京樞軸を死守せん 太平洋會議の支那問題 南京政府と中國共產黨 支那を支配する國民黨 北支進出を企てる支那共產軍 支那論の貧困と事變の認識) 日支外交の急轉 最近半年の月誌

支那邊疆に對する蘇聯邦の策動

陸軍省調査班編

昭和八 四六判 一八頁 陸軍省調査班 非賣
支那事情—政治・外交

と芝罘條約 露佛獨三國の干涉 臺灣の割讓
第四卷(昭和一一 三三六頁) 使節の交換 遼東半島の回收 東支鐵道問題の發端 李鴻章の歐洲訪問と露支密約 東支鐵道及道勝銀行 朝鮮の兇變と日露の抗争 日支通商條約の締結 天津上海厦門漢口の租界増置 獨逸の膠州灣占領 露國の旅大租借 南滿洲鐵道の敷設 日本福建を勢力範圍と爲す 清韓通商條約の締結 求國の門戶開放政策宣言 庚子事變 附(露支密約の眞偽に就て)

誤れる支那の對日政策と列國の對支活動

陸軍省軍事調查部編

昭和九 四六判 三五頁 陸軍省軍事調查部 非賣
前言 誤れる支那の對日政策と列國の活動 列國の對支活動の具體的事例 結言

日支の動向と世界の運命

半田弘平著

昭和一一 四六判 二八二頁 春秋社 一・三〇
世界の心臓揚子江 不動の大陸支那 問題は日本 戰場と民族渡橋滿洲 謎の國ソヴェトロシア 世界の雄アメリカ合衆國 追はるゝ覇者大英國 極東の胎動と歐洲の運命

日支共存への道

長野朗著

昭和一二 四六判 二七七頁 坂上書院 一・〇〇
日支國交の調整 日支の共同使命

要旨 赤化機關 外蒙方面 新疆方面 結び

雲南に對する英佛の活躍

陸軍省軍事調查部編

昭和九 四六判 一二頁 陸軍省軍事調查部 非賣
前言 雲南の價值と現在の政情 雲南に對する英佛の活動 結言

支那邊疆と英露の角逐

入江啓四郎著

昭和一〇 菊判 六〇四頁 ナウカ社 四・〇〇
總論 蒙古 新疆 西藏

支那及滿洲に於ける治外法權及領事裁判權

古賀元吉著

昭和八 菊判 二五五頁 日支問題研究會 一・五〇
前篇(治外法權及領事裁判權 治外法權 支那警察法令 領事裁判權 領事裁判事務非訟事務 領事警察權 開港場 租界) 後篇(滿洲に關する特制概説 治外法權及領事裁判權及原則に對する滿洲に於ける例外的關係 鐵道附屬地)

支那及滿洲に於ける治外法權撤廢問題

古賀元吉著

昭和八 菊判 一六三頁 日支問題研究會 一・二〇
前篇 治外法權撤廢原則論(治外法權撤廢の意義 治外法權撤廢問題論 對策原則論 既得權論 保障方法論 將來の利益論) 後篇(滿洲國治

支那事情—經濟・産業・交通

外法權撤廢論 日華民國法權撤廢論)

支那租界論

植田捷雄著

租界外交史 租界の本質 結論 昭和九 菊判 二六四頁 巖松堂 二・二〇

中國に於ける外國人の地位 入江啓四郎著

昭和一二 菊判 七四七頁 東京堂 六・〇〇

外國人の地位に關する史觀 不平等關係の基本的考察 外人僑居の諸態
様と内地旅行 租界制度及び租借地 利益範圍及び特殊地位 外國陸海
軍及び警察力 領事裁判 會審並に觀審 外國船舶及び領水内諸問題
外國傳教師の特殊地位 排外運動と外國人の保護 經濟的排外法規と外
資節制

支那の對外的國民運動 末廣重雄著

昭和四 四六判 二〇〇頁 弘文堂 一・五〇

不平等條約廢棄運動はどうして支那に起つたか 不平等條約廢棄とは何
であるか 華府會議以後に於ける不平等條約廢棄運動 不平等條約廢棄
と日本 附(支那に關する九國條約)

支那及び滿洲關係條約及公文集 增補版 外交時報社編

昭和一一 四六判 一三三七頁 外交時報社 六・〇〇

支那ニ關スル數國間條約 支那ニ關スル各國間條約 支那國ト他國間條
約 日本國・支那國間條約 補遺

貴州省 廣東省 新疆省
下卷(三七六頁一・八〇) 江西省 福建省 山東省 浙江省 安徽省 江蘇省

最新對華經濟資料 第一至五輯 野德一編

昭和一一 菊判 日支問題研究會 各一・五〇

第一輯(二四四頁) 支那經濟界の現状(宋子文) 漢口經濟事情(漢口商
工會議所調査) 最新統計の語る日華輸入情勢 支那生産指數(中央銀行
經濟研究會) 經濟情報
第二輯(二五一頁) 中華民國の財政狀況(孔祥熙) 西北(六省)經濟調査
齋堂炭礦調査報告 支那の糧食問題(王子建) 支那棉作の實狀と其
將來 支那幣制改革後の成績 經濟情報
第三輯(二四七頁) 支那國民經濟建設運動の全貌 國民經濟建設の意義
及其實施(蔣介石) 廣西省の建設計畫(佐藤佐) 實業建設の回顧(吳鼎
昌) 鐵道及其建設事業 山東省の交通建設 最近六箇年の天津棉花市
況 冀東地區の經濟及財政 中國桐油の現狀と其前途(金宜莊)
第四輯(二四八頁) 日華貿易の概況(商工省貿易局調査) 支那經濟界の
實狀と各種指標(上海日本商工會議所金曜會) 中國實業の概況(國民政
府實業部統計處)
第五輯(二五七頁) 中國經濟研究の方法論的檢討(沈志遠) 山東省工業
の全貌 中國金融業の發展 中國に於ける諸外國の經濟的活躍と其經濟
的進出 中國農村經濟の躍進 海南島の經濟的價值 中國航空事業と航
運業の現狀

日支政治經濟讀本

大阪毎日・東京日日新聞社編

昭和一二 四六判 三六三頁 一元社 一七〇

支那事情—經濟・産業・交通

一四

(經濟・産業・交通)

支那近世産業發達史

青柳篤恒著

昭和六 四六判 一〇五頁 東亞研究會 五〇
西方經濟力の東漸 近世科學工業の移植 鐵道の敷設と汽船航運の開拓
銀行の創設と貨幣の鑄造 外九項

支那經濟現勢講話

孫懷仁等著

支那經濟研究會譯 昭和一〇 四六判 二一五頁 學藝社 一・四〇

支那經濟現勢概觀 支那財政金融の現勢 支那の商業貿易と國際收支
支那工業の現勢 支那農業の現勢 支那交通の現勢 列強の在支經濟勢
力 支那國民經濟の出口

支那經濟事情研究

東亞事情研究會編

昭和一〇 菊判 四八一頁 東亞事情研究會 非賣
金融 貿易 産業 交通 財政

支那各省經濟事情

上、中、下(日本國際協會叢書一三一、
一五七、一六五輯)

日本國際協會編

昭和一一 菊判 日本國際協會
上卷(二三一頁一・〇〇) 河北省 山西省 陝西省 甘肅省 察哈爾・
綏遠兩省 廣西省
中卷(四四三頁二・〇〇) 湖北省 湖南省 河南省 四川省 雲南省

支那事變の經濟的根據 支那統一運動と政治狀況 支那全體經濟と北支
の特殊地位 中支事變とわが權益 東亞ブロックの擴大

支那經濟年報

昭和一二年版

東京商工會議所調査課編

昭和一一 菊判 六四七頁 改造社 三・〇〇
總說 農村問題 商工業の類勢 幣制改革後の通貨金融 財政の危機
外國貿易及關稅 交通の發達 北支那及蒙古問題 北支那問題の重要性
北支問題とソヴェエツト 雲南省最近の經濟狀況

支那經濟年報

第一輯

中國經濟情報社編

一九三六年版 昭和一二 四六判 三二五頁 白揚社 一・三〇
緒論 一ヶ年間に於ける幾つかの重要問題 貿易 工業 農業 金融と
財政 交通 附(支那經濟統計資料)

支那の經濟問題とその將來(太平洋問題資料第七)

ソールター著

太平洋問題調査會譯編 昭和九 菊判 八六頁 太平洋問題調査會 非賣
世界不況下の支那 支那の特殊性 政策上の諸問題 結論

支那財政經濟一斑

吉田虎雄著

昭和一一 菊判 三三五頁 學藝社 三・〇〇
支那の財政概觀 支那の關稅問題 支那に於ける廢兩改元の顛末 支那
鹽制の弊害と新鹽法 國民政府の土地政策 兩漢の田租と徭役及人頭稅
支那に於ける治外法權撤廢問題 不平等條約撤廢問題と支那の真相 日

一五

支那事情—經濟・産業・交通

支那經濟事情講話

東京商工會議所編

昭和一一 四六判 三五九頁 森山書店 一八〇
日支間の諸問題(有吉明) 我等の大アジア主義と支那(松井石根) 支那の商業(西山榮久) 日支貿易(鶴見左吉雄) 日支關係の歴史的回顧と展望(矢野仁一) 支那の財政と公債(内田勝司) 支那の鐵道問題(伊澤道雄) 支那經濟恐慌の特色(木村増太郎) 支那の金融と外國爲替(土屋計左右) 支那の銀と貨幣(荒木光太郎) 世界に於ける支那問題(中野正剛)

支那經濟概観

(日本産業經濟) 濱田峰太郎著

昭和一二 三六判 二四二頁 白揚社 一二〇
總説 現段階の支那經濟個々の解剖 結論・事變に於ける支那經濟の動向

國民政府經濟産業行政と其現勢

(日華實業協會叢書第三輯)

昭和一一 菊判 二九八頁 日華實業協會 一〇〇
日華實業協會編
實業行政 商業行政 農業行政 林業行政 漁牧行政 鑛業行政 土地行政 勞工行政 水利行政 交通行政 鐵道行政 航空事業 財政及び金融行政 國民政府農村復興政策及計畫 建設委員會の組織及び概況 全國經濟委員會の組織及び概況

支那經濟建設事業の現状

東洋協會調查部編

昭和一一 菊判 七三頁 東洋協會 非賣
國難下の國內諸建設事業 孫文の「建國方略」と國民政府の實業建設計畫 全國經濟委員會と國際聯盟の技術合作 全國經濟委員會の建設事業 現況 最近の國民經濟建設運動

英人の觀たる支那の建設運動

(調査資料パンフ) レット第二三輯

昭和一二 菊判 五一頁 東洋協會 非賣
支那に於ける建設運動の意義 建設に影響する諸原因 建設運動の機關 經濟建設における二元論的背反 農業政策 社會政策及び工業政策の目的と結果 産業政策を決定する諸勢力 將來の形勢の見透し・國民經濟建設運動 建設運動に於ける顯著な諸特徴

支那に於ける財政的經濟的統一の狀況に就て

(時局資料) 內閣情報部編

昭和一二 菊判 二九頁 文部省 非賣
財政金融の整理改善 幣制の統一 經濟建設の進展 結論

支那經濟建設の全貌

(日本國際協會叢書第一九一輯) 方顯廷等著

昭和一二 菊判 二九八頁 日本國際協會 二〇〇
支那に於ける統制經濟(方顯廷) 支那に於ける農村經濟建設(何廉) 支那農村に於ける新政治(張純明) 支那の棉業最近の發達(丁信) 支那に於ける建設運動(テイラー)

支那の經濟恐慌に關する調査

(東京商工會議所商工調査) 第五六輯 第一至三卷

東京商工會議所編 昭和一一 菊判 東京商工會議所
第一卷(四一頁・二五) 金融及國際貸借
第二卷(八二頁・二五) 農業
第三卷(一一〇頁・三〇) 商工業

支那經濟恐慌論

木村増太郎著

昭和一二 菊判 二六〇頁 改造社 二・七〇
農村經濟の崩壊 金融界の不安 商工業の衰退 支那經濟恐慌の特質

支那經濟の崩壊と日本

高橋龜吉著

昭和一一 四六判 六一九頁 千倉書房 一・六〇
日支經濟提携と其の奥底に横はる諸問題 支那の財政・金融・貿易・工鑛・労働 支那農村の現状と其の前途

支那貨幣研究

吉田虎雄著

昭和八 菊判 三〇四頁 山口高商内東亞經濟研究會 二・五〇
總説 歴代貨幣沿革 現代の通貨 民國の幣制 幣制改革問題 附(滿洲國の新貨幣)

支那事情—經濟・産業・交通

支那と銀(東亞研究講座) 井手薰雄著
昭和九 四六判 七〇頁 東亞研究會 三五
一九三三年の幣制改革 南京政府銀支配權獲得後に於ける南京政府の銀政策と世界銀貨變動の彰響

支那貨幣論

有本邦造著

昭和一一 菊判 二四七頁 森山書店 二・五〇
金及其取引 大條銀及其取引 銅貨及其鑄造 造幣廠

支那貨幣金融發達史

廣畑茂著

昭和一一 菊判 四二八頁 叢文閣 三・〇〇
支那歴史貨幣 現代貨幣 支那固有の金融機關

支那幣制研究

飯島幡司著

昭和一二 菊判 四〇九頁 有斐閣 三・八〇
米國銀政策とその對支意圖(米國銀政策の政治的背景 米國銀政策の法制的階梯 銀貨の變動と支那の購買力に關する論争 銀貨の變動と支那の貿易に關する理論の考察) 支那新幣制とその成立過程(銀の移動と景氣の轉換 一九三四—三五年の銀恐慌 支那政府の銀流失防止策 銀の私運 孔祥熙の幣制改革 幣制改革以後) 結論(新幣制の前途を制

支那事情—經濟・産業・交通
約する諸條件綜観)

一八

滿支幣制改革問題

(現代金融經濟全集第三〇卷)

荒木光太郎著

昭和一一 四六判 一九三頁 改造社・八〇

支那幣制改革の批判

林維英著
東京銀行集會所譯

昭和一二 菊判 二〇二頁 東京銀行集會所 非賣
緒論 新幣制の背景をなす諸問題 新通貨制度の本質 通貨統制 新幣制の前途 要約及結論

支那及滿洲の通貨と幣制改革

根岸智元 治著

昭和一二 菊判 六三九頁 東亞月文會 四・〇〇
總論 各論 支那及び滿洲の幣制改革

中國最近金融史

濱田峰太郎著

昭和一一 四六判 四九〇頁 東洋經濟新報社 二・〇〇
爲替及び金融の基本概念としての貨幣 支那現在の通貨 支那に於ける金融・金融機關・金融市場 支那に於ける外國爲替・爲替市場 附(國民政府)

支那關稅制度綱要

滿鐵經濟調查會編

昭和七 菊判 六八頁 南滿洲鐵道株式會社 三・〇〇
支那關稅制度の沿革 輸出入稅率 海關の組織 海關と外債 陸境關稅制度廢止問題 内部關稅 最近に於ける海關收入

支那關稅制度の由來

(南支那及南洋調查第二一四輯)

臺灣總督官房調查課編

昭和九 菊判 八〇頁 臺灣總督府官房調查課 非賣
緒論 支那關稅の發達

支那外債史論

訂再版 田村幸策著

昭和一一 菊判 五七六頁 外交時報社 五・〇〇
總論 支那外債の起源並に日清戰後以前の外債 日清戰爭の戰費及賠償金の爲にする外債 日清戰爭直後に於ける鐵道外債 團匪事變の賠償金等十五章

支那の農業と工業

ト 浦松佐美太郎著
ネ 友彦譯

昭和一一 菊判 二二九頁 岩波書店 一・八〇
序論 農業制度 農村問題 農村發達の可能性 新舊の工業制度 政治 支那事情—經濟・産業・交通

府の通貨變革とその將來)

支那銀行論

吳承禧著
玉木英夫譯

昭和一二 菊判 二八七頁 叢文閣 二・〇〇
歷史的發展と現状の概略 業務の分析(資金、貸付、投資) 外國系銀行・內國錢莊及び內國銀行 制度の檢討 結論

支那資本機構、財閥政權

濱田峰太郎著

昭和一二 菊判 三五三頁 叢文閣 三・〇〇
總說 支那民族資本機構の解剖 支那財閥と政權の分析

支那財政講話

(極東問題研究叢書第一) 孫懷仁著
園田日吉譯

昭和一二 四六判 二一九頁 泰山房 一・〇〇
中央財政の批判 地方財政の批判

支那國民政府の財政

(東亞小冊第十九)

東亞經濟調查局編

昭和一一 菊判 一三三頁 東亞經濟調查局 六・〇〇
國民政府の經費 國民政府の收入 國民政府の公債

支那工業論

有澤廣巳譯編

昭和一一 菊判 四四四頁 改造社 三・〇〇
支那の農村工業(方顯廷 吳知) 北支の農村織物業と問屋制度(方顯廷) 北支農村工業の發達と衰頹(方顯廷 畢相輝) 支那の工業化の程度と影響(何廉 方顯廷) 支那に於ける産業資本(方顯廷)

支那紡績業の發達とその將來

東亞經濟調查局編

昭和七 四六判 一四〇頁 東亞經濟調查局 八・〇〇
支那紡績業の沿革 支那紡績業の發達原因 支那紡績業の現勢 手織業の現状及將來 支那の綿製品輸入狀況 支那綿製品の輸出狀況 支那紡績業の發達と本邦紡績業 支那棉花需給の現在と將來

貿易上ヨリ觀タル中華民國ニ於ケル排日貨ノ影響

商工省貿易局編

昭和七 菊判 四九頁 商工省貿易局 非賣
今次排日貨運動ノ概要 對中國輸出貿易狀況 中國ニ於ケル本邦品ノ地位 中國商品ノ進出狀態 第三國商品ノ進出狀態

支那ニ於ケル排日貨運動ノ法的考察

村上貞吉著

昭和七 菊判 八五頁 非賣
一九

支那事情—教育・文化

支那ニ於ケル排日貨運動ノ主體 國民政府ト國民黨ノ關係 支那ニ於ケル民衆運動ト爲政者並ニ黨部 抗日救國會ノ私刑的制裁 國民政府中 央各部及地方政策ノ排日訓令並ニ指導督勵 排日貨ノ違法性 司法當局ノ排日的裁判 支那裁判所ノ司法機能ノ劣悪 暴行被害ノ實狀

支那近代農民經濟史研究

薛農山等著 東亞經濟調查局譯編

昭和一〇 菊判 三八七頁 東亞經濟調查局 一・七〇
序論 清代における土地制度と初期農民闘争 太平天國革命 義和團 帝國主義侵入の深化と支那に於ける植民地産業革命の形式

支那農家經濟研究 上、下

東亞經濟調查局譯

昭和一〇 菊判 東亞經濟調查局 各一七〇
上(三〇九頁) 序説 農場の配置と土地の利用 一年間の農業經營 農業經營の最も良き大きさ 土地所有と小作制度 作物 下(三八五頁) 家畜と豊度の維持 農業労働 農家家族と人口 食物消費 生活標準 結論

支那農民運動觀

長野朗著

昭和八 菊判 二八〇頁 建設社 二・〇〇
支那歴代革命農民と運動 農民運動の現状 農民の自治と自衛

現代支那社會労働運動研究

宮脇賢之介著

昭和七 菊判 六八六頁 平凡社 三・八〇

中華民國文化機關要覽

同仁會編

昭和一一 四六判 一八三頁 同仁會 五・〇
支那の大學 學院 專科學校 研究機關 博物館 圖書館

(國防・軍備)

支那軍の正しき認識(時局資料)

内閣情報部編

昭和一二 菊判 三二頁 文部省 非賣
まへがき 支那軍の統一過程 軍閥の私兵から國防軍へ 現代支那軍の解剖 支那の防禦計畫 第二線國防準備 結論

支那の長期國防計畫

謝國城著

昭和一二 四六判 一六二頁 高山書院 一・〇〇
支那の國防 國防中心區 陸軍の國防計畫 海軍の國防計畫 空軍の建設と計畫 鐵道國防計畫 國防線上の公路 海運・通信 國防資源の諸問題 國防工業の建設 國防財政 食糧對策 廣義國防計畫 支那非常時國防を擔ふ人々

空軍支那の秘密

國際經濟研究所編

昭和九 四六判 六一頁 國際經濟研究所 二・〇
支那航空界の機密 新疆に於ける英露の衝突

支那事情—北支及邊疆事情

國民革命と社會労働争議 國民革命と労働運動 國民革命と農民運動 國民革命と商民運動 南京國民政府公布の労働組合法の産生まで 南京國民政府新工場法 工場検査法 勞資争議處理法 民國十九年度反蔣運動の回憶 北支農村社會の民隠裸記 南京國民政府の農村政策 中國農村を風靡せる癩癩の流行 中國遊民と農村社會 中國阿片公賣の説

支那海運の現状

内田敬三著

昭和一一 菊判 九一頁 内田敬三 非賣
序言 支那商船隊 支那船主と其の經營航路 支那海上貿易の近況 結論 附(支那の船舶 船主及海上貿易に關する諸統計)

支那之鐵道

鐵道省運輸局編

昭和一二 菊判 二二二頁 鐵道省運輸局 非賣
支那鐵道小史 鐵道借款 支那鐵道の組織 國營鐵道統計 國營各鐵道 公營鐵道 民營鐵道 外國承辦鐵道 新線の建設

(教育・文化)

現代支那の教育(東亞研究講)

池田孝著

昭和一〇 四六判 五三頁 東亞研究會 三・〇
新興教育の出生 新しき教育方針 教育行政の機關 支那教育の方法 教育機關の現状 附(留學生の近況)

支那便衣隊の正體を衝く 實來正芳著

昭和一二 四六判 一五三頁 良榮堂 五・〇

まへがき 便衣隊とは怎んなもの乎 便衣隊の起源 便衣隊の組織・系統・種別 現在上海青幫は便衣隊の巢窟 便衣隊の素質 便衣隊の任務 支那便衣隊の戦法 便衣隊の特殊性 卑怯極まる支那便衣隊 便衣隊の獐狃兇暴性 滿州國政府覆滅大陰謀事件と便衣隊 便衣隊と共產黨との關係 便衣隊の親類筋藍衣社 支那便衣隊の戰闘的價値 結論

(北支及邊疆事情)

最近の北支事情(調査資料)

東洋協會調查部編

昭和一一 菊判 七五頁 東洋協會 非賣
緒言 北支の範圍 北支に於ける最近の出來事 北支各省の政治機構と現状 北支に於ける交通網 産業より見た北支の特性 北支に於ける主要なる産業統計 結論

爆彈北支を語る

小林知治著

昭和一二 四六判 三二二頁 太陽閣 一・二〇
北支事變はなぜ起つたか 事變後の北支はどうなるか 混亂北支は何處へ行くか 冀察の南京化と冀東の將來 抗日支那の軍備を検討する 對日戦線に躍る人々 北支の時局に躍る人々 爆發前の北支見聞記 北支

支那事情—北支及邊疆事情

の風土と文化的施設 北支の資源と經濟開發の諸問題 北支における列國の權益 歐米の對支侵略と日本の使命 對支政策の新基調

北支通覽

東洋事情研究會編

昭和一〇 菊判 六六四頁 東洋事情研究會 三八〇
山東事情 河北事情 山西事情 察哈爾事情 綏遠事情 陝西事情 甘肅事情 寧夏事情 北支に於ける列國の權益 北支重要叢錄

北支の政情

姫野德一著

昭和一〇 菊判 一八九頁 日支問題研究會 一・二〇
結論 北支概要 北支農民運動の勃發 冀察政權 冀東政權 冀察冀東兩政權の成立經過と日本及諸外國の態度 日本の對支政權確定 日本の國策と北支民衆 資料・情報 北支の主要人物

動く北支

第二國民會編輯部編

昭和二二 四六判 二七七頁 第二國民會出版部 一・三〇
北支はどこなところか 北支事變はどうして起つたか 北支に於ける中央工作 藍衣社とO・C團 中央政府の對日作戰 支那共產黨と抗日戦線 現地に見た抗日 支那の軍隊 問題の二十九軍を觀る 北支事變の經過 事變に躍る人々

冀察・冀東問題

姫野德一著

昭和一〇 四六判 一四〇頁 日支問題研究會 一・〇〇

昭和一〇 四六判 一〇六五頁 學藝社 三・五〇

北支那經濟概論(田中忠夫) 北支那の天然資源(五十子宇平) 北支那の外國貿易と列國の商勢(細見健三) 北支那に於ける列國の權益(高木陸郎) 北支那とソヴィエット・ロシア(長谷川了) 解説北支に關する日支關係條約(村田孜郎)

北支那經濟概論(最近北支事情)

田中忠夫著

昭和一〇 四六判 一八九頁 學藝社 一・八〇

北支那の自然環境 北支那の社會環境 北支那の國際環境 北支那經濟の歴史的發展と其の本質並に特徴 北支那の農業 北支那の工業 北支那の財政 北支那經濟恐慌の深化

北支那經濟の解剖

外務省調査部譯編

昭和一〇 菊判 一四四頁 外務省調査部 非賣
本刊の趣旨 北支經濟の重要性と其の前途 北支の地理的環境 北支の土地と人口 北支の水利 北支の財政 北支の金融 北支の交通 北支の礦産 北支の農業 北支の工業 北支の貿易

北支經濟事情

姫野德一編

昭和一〇 菊判 一七八頁 日支問題研究會 一・二〇

北支の經濟事情(今村俊三) 天津一般商工市況(天津日本商工會議所) 一九三五年天津對外貿易 山東省の棉花合作社について(竹林博) 山東省の石炭(杜中) 山東省の鷄卵(華北常置員調査) 支那の農業研究(東

支那事情—北支及邊疆事情

緒論(日華の宿命的意義 冀察政權の由來と存立的意義 冀東政權の成立及存立的意義) 日本論(中國政府の華北對策 日本の華北政策論 關係參考資料) 結論(華北事變と日華の態度 中國々民三省の機)

赤裸々に見たる北支要人の動き(國際パンフレツト)

タイムス通信社編

昭和一〇 四六判 三〇頁 タイムス通信社 非賣
〔昭和十年北支事變後の要人の動きを記す〕

北支に關する日支關係條約(最近北支事情)

村田孜郎著

昭和一〇 四六判 二三八頁 學藝社 一・二〇
條約に依る支那開國略記 北支に關する日支關係の條約 參考條約

北支那とソヴィエット・ロシア(最近北支事情)

長谷川了著

昭和一〇 四六判 一二九頁 學藝社 一・八〇
緒言 過去に於ける蘇支問題 北支に於ける日支蘇關係 北支に於ける蘇支關係の將來

北支那經濟總攬

田中忠夫等著

京商工會議所) 北支の棉花栽培

北支經濟讀本

小島精一著

昭和一二 菊判 二七二頁 千倉書房 一・五〇
北支の資源と經濟狀況 北支經濟開發 支那國防經濟建設

北支那の天然資源(最近北支事情)

五十子宇平著

昭和一〇 四六判 一六〇頁 學藝社 一・八〇
緒論 農産資源の概況 畜産の資源概況 林産の資源概況 水産の資源概況 礦産の資源概況

北支那の外國貿易と列國の商勢(最近北支事情)

細見健三著

昭和一〇 四六判 一六二頁 學藝社 一・八〇
北支那の概念 支那の外國貿易 北支那外國貿易 關稅制度

北支那に於ける列國の權益(最近北支事情)

高木陸郎著

昭和一〇 四六判 一九〇頁 學藝社 一・八〇
北支那に於ける列國權益の鳥瞰 北支那に於ける英國の現有權益 北支那に於ける列國(日英を除く)の現有權益 北支那に於ける日本の現有權益

赤化 蒙古と新疆

善隣協會調查部編

昭和一〇 四六判 三〇三頁 日本公論社 二・五〇
獨立前夜の内蒙古 外蒙古よりの脅威 赤化新疆の全貌 秘境西藏の將來 四川を目指す英勢力 青海 西康の問題 三色旗下の雲南 中國共產軍の邊境移動

蒙古事情 (滿洲事情案内)

西藤 辰 雄編

昭和一 菊判 一二二頁 滿洲事情案内所
蒙古の地域と民族 蒙古略史 蒙古民族の文化 資源・産業 商業 交通・運輸・通信 外蒙古の政治 プリヤート蒙古 滿洲帝國內蒙古 西部内蒙古 附(蒙古の地名概要其他)

内蒙古 (地理 業 文化)

善隣協會調查部編

昭和一〇 四六判 五〇七頁 日本公論社 三・五〇
内蒙古の自然環境 蒙古人とその文化 内蒙古の産業

外蒙古の現勢

善隣協會調查部編

昭和一〇 四六判 一九四頁 日本公論社 一・〇〇
總論 國家組織 對外關係 軍事情況 教育 宗教 經濟及び貿易 産業 工業 交通及び通信 都市 附(外蒙古共和國憲法)

支那事變

蘆溝橋事件の經過概要 (調査資料)

東洋協會調查部編

昭和一二 四六判 四〇頁 東洋協會 非賣
蘆溝橋事件の發端 停戰約諾と支那軍の不信 北支派兵と支那軍の陣容 現地交渉と支那軍の配置 中央軍北上と我が抗議内容 南京政府の回答と外務省の聲明 撤兵不履行と最後通牒

今次事變の意義 (時局 資料)

内閣情報部編

昭和一二 菊判 一九頁 文部省 非賣
はしがき 塘沽停戰協定の成立から大使交換まで 第一次北支事件以後我國の對支政策

支那事變實記 第一至三輯

讀賣新聞社編輯局編

昭和一二 四六判 非凡閣 各七〇
第一輯(三五八頁) 自七月七日至八月三十一日
第二輯(二九五頁) 自九月一日至九月三十日
第三輯(三三一頁) 自十月一日至十月三十日

支那事變と列國の論調 第一・二輯

姫野 徳 一編

支那事變

蒙古

山本實 彦著

[蒙古地方の旅行記]

昭和一〇 四六判 四一四頁 改造社 二・〇〇

風雲 蒙古

村田 孜 郎著

昭和一 菊判 一二二頁 昭森社 一・二〇
内蒙古風土記 新蒙古を往く 高原・包・女 蒙古人氣質 喇嘛教の蒙古 アジアの嵐 成吉思汗 沙漠の點描 内蒙古自治運動の經過 内蒙古赤化運動 綏遠問題の發端 蔣介石の蒙古戰線 新蒙古の創造者たち 赤色蒙古脱出記 岐路に立つ外蒙古

蒙古高原横斷記

東亞考古學會蒙古調査班編

昭和一二 四六倍判 三九一頁 東京朝日新聞社 三・五〇
シリシ ン ゴル紀行 ウラン・チャップ紀行 蒙古雜記(地文的に見た蒙古高原「内蒙古高原」の生活 内蒙古の人々 蒙古の言語に就いて 蒙古の宗教に就いて)

昭和一二 菊判 巖松堂 各一〇〇

第一輯(一五二頁) 支那事變に對する日本側の措置 支那事變と支那

支那事變と列國 各國新聞論調

第二輯(一四〇頁) 支那事變に對する日本側の措置 支那事變と支那

支那事變と列國 支那事變と國際聯盟 各國新聞論調

支那事變經過の概要

陸軍省新聞班編

昭和一二 四六判 六三頁 陸軍省新聞班 非賣
第二十九軍に對する廢懲戰 戰線察北に及ぶ 皇軍中支を衝く 上海戰線の進展 進撃忽ち堅壘を抜く

何故の支那事變 (國民精神總動員資料第二輯)

内閣情報部編

昭和一二 菊判 一八頁 内閣・内務省・文部省 非賣

支那事變と我海軍

梅崎 卯之助著

昭和一二 菊判 二二頁 國民精神總動員中央聯盟 非賣
彼は全く計画的 我海軍の航空部隊 我空襲部隊の活躍 精神力と猛訓練 空中肉彈爆撃 南京空爆の印象 暗夜の空襲 整備員の勞苦 平時封鎖と各種制限 結び

支那事變について

林 群 喜著

昭和一二 菊判 一八頁 國民精神總動員中央聯盟 非賣
支那の排日運動 容共抗日 寛大なる我が態度 北支の戰績 上海戰線

二五

支那事變

諸外國の動向 日獨防共協定 宣傳と各國の利害 舉國一致と理想實現
支那事變と世界戦争の危機 長島隆 二著

野心なき日本 大勢は進む 日支關係の分岐點 英國の生んだ北支政權
運命の變轉 宿命の蘆溝橋 富源北支 天下無敵の國民とは 世界の動
向と不可解な英國 世界的大動搖の前後 赤色支那の運命 日支事變の
目標 外交と國運 帝國々民の重大任務

支那の財政はどうなるか (經濟研究叢書)

大西 齊著

昭和一二 四六判 五九頁 日本工業俱樂部經濟研究會 非賣
日支事變の原因 日支事變の軍事的限界 支那の抵抗力 支那に於ける
國際關係 事變の前途

支那事變解決論

肥田 琢 司著

昭和一二 四六判 一九〇頁 信正社 一〇〇
支那事變解決論(東亞の平和確立の聖戰 外交的解決を舉國一致鞭撻せ
よ 慰問に使用して都門を辭す 日支は水魚の運命である もし孫文が生
きてゐたなら 支那軍隊は世界人道の敵 支那の赤化を歐米諸國民に警
告す 千載一遇の好機逸す可からず 日支國民教育の融合同化 我が外
交官に猛省を促す 防共地區設定の急務 寶庫を開き支那民衆に潤ほせ
支那事變の次に來るべき敵「九ヶ國」不戰「兩條約」の破壊者は南京政府

なり 九ヶ國會議に際し米國民に望む 日本の戦費は充分に有る) 北
支皇軍慰問に使用して

アジア再建の義戦

永井柳太郎著

昭和一二 菊判 一九頁 國民精神總動員中央聯盟 非賣
出兵の動機は公明正大 日滿支三ヶ國の共存共榮 政權維持の排日抗日
支那國民を仇とせず 不退轉の勇猛心を起せ 銃後の務を怠るな 日本
國民全體の戦ひ

支那戦線より歸りて

朝日新聞社編

昭和一二 四六判 二〇四頁 朝日新聞社 三五
上海の實戦を観る(松島慶三) 戦の北支より歸りて(岩崎春茂) 空襲下
の上海(岡美千雄) 南京籠城から脱出まで(橋本登美三郎) 通州の同胞
を弔ふ(進藤次郎) 北支戦線を慰問して(吉田淳) 支那事變日誌(七月
八日より八月三十一日まで)

北支戦線陣中手記

武藤夜舟著

昭和一二 四六判 二〇八頁 第二國民會出版部 一八〇
〔支那事變中北支戦線の情勢を讀物風に記す〕

上海戦線美談 第一二輯

朝日新聞社編

昭和一二 四六判 朝日新聞社 各三〇

第一輯(一三六頁) 上海戦線の巻 北支戦線の巻
第二輯(一七一頁) 地上戦の巻 空中戦の巻 敵前上陸座談會

支那忠烈日本魂

小西武 夫著

昭和一二 四六判 二四四頁 元文社 六〇
支那事變展望(我國民の態度 大山事件と上海戦争等) 前線美談(突貫又
突貫 日章旗に訣別 おゝ大空襲 豪勇四隊長 悲壯なる訣別飛行 軍
醫殿銃を銃を 戦車を組み伏せる 大敵を一人で支ふ) 壯絶凄惨敵前
上陸 敵前上陸の花二輪 壯烈山本部隊長 若鷲の武勳) 銃後美談(慰
問金の嵐 非常時の新妻 天晴れ運轉手 感激の街路召集 決死八名の
女性 この兄にしてこの弟 海軍婆さん萬歳 山内中尉の母 恨は深し
寺原山 半島人の奉仕 報國女中奉公 笹井兵曹の遺品 赤誠三助 窮
境の勇士の妻に 献金銃後に炸裂) 軍事知識(支那要人 支那地名 兵
器の種類等)

軍國萬朶の櫻

村上 寛編

昭和一二 四六判 二五九頁 文友堂 七〇
日支紛争の經過 銃後篇(父の死にも歸宅を肯せず 學生島人の從軍願
ひ 血書で出征志願 死の激勵 學童の家庭訪問班 飛行機六機を献納
醫療報告 一錢貯金 納豆報告 税金免除 リレー 献金箱 農家の生産
力擴充 死の床から激勵 軍國の母心等八九佳話) 戦争篇(堪忍袋の緒
を切る 最初の空中偵察 貴重なる報告書 大山中尉慘殺さる 南口の
激戦 敵機を射落す 未曾有の大空襲 重傷を負うて操縦 空中に花と

支那事變

散る 自ら愛機を焼く 鐵道爆破 顔を繻帯で包んで 重傷の身で銃身
交換 長城に日章旗 戦車を組み伏す 俺にかまはず進め 陸軍部隊敵
前上陸 掩護砲撃 支那船艦の交通遮断等一〇三美談)

美談輝く大和魂

中央教化團體聯合會編

昭和一二 四六判 一〇九頁 中央教化團體聯合會 二〇
失明伍長と重傷兵二人三脚 血の傳令 身に六弾を受けて部下の脊で「進
め」の號令 勇猛ハンマーを揮ひ機關銃口を叩き折る等四六美談

支那事變 北支の巻

山本實彦著

昭和一二 四六判 三三四頁 改造社 一・二〇
天津より 北平より 通州より 青島より 大黄河論 綏遠の思ひ出
防共戦の限界とその意義 附(中國の近狀を報告す 蔣介石政權の將來
性)

支那忠勇報國美談

木村定次郎著

昭和一二 四六判 三六七頁 龍文舎 七〇
忠勇篇(僅二名で三十餘名と應戦 壯烈近藤二等兵の戦死 敵弾中を見
事に泳ぎ軍橋工事の一番乗り 龍王廟の肉弾戦 恩田初年兵の活躍 通
州一瞬に凱歌擧がる 平部隊長の猛攻撃 十字砲火の城壁を攀ぶ 勇猛
肉弾の兩部隊長 細木中佐壯烈の最期 特務機關全員の討死 日章旗を
鉢巻にし 亂射を受けて絶命 月下の露を拂つて突撃 壯烈清河鎮七勇
士等一四四美談) 報國篇(九十九九婦の献金 杖ついで三宅坂へ 空の父

の忘れ形見霞ヶ關に寄する赤誠 一家四人出征の後 ゴム長の女隊長
家族を引受けて激勵 運轉手と大觀畫伯 六少女の力強き誓 納豆を賣つ
て献金 勇ましい戦線少年隊健氣なお手傳等五二美談 支那事變日誌

聖戰忠話

小笠原長生著

昭和一二 四六判 四一〇頁 實業之日本社 一三〇
伏見若宮殿下の御奮戰篇 海軍篇(海軍航空篇 海軍少年航空篇) 陸軍
篇(陸軍航空篇 陸軍少年航空篇) 皇國の臣道

上海事件外交史

榛原茂樹著
柏正彦著

昭和七 四六判 五八二頁 金港堂書籍株式會社 二・四〇
上海事件と日本の立場 上海事件の經過 事件と國際聯盟 停戰交渉
滿洲國建設始末 日本に於ける聯盟支那調査員 日支紛争と世界の輿論
事件日誌

上海問題研究資料

借行社編

昭和七 四六判 四三〇頁 借行社編纂所 非賣
全支排日運動の根源と其史的觀察 支那と宣傳 支那新聞宣傳振の實例
租界に就て 上海事件と陸軍派遣に至る迄の経緯 上海附近の戦闘に就
て 上海事件と國際聯盟 上海に於ける各國の企業 經濟封鎖佈るゝに
足らず 上海停戰協定の成立と経緯 上海派遣軍の作戦行動の概要 上
海派遣軍撤兵に關する陸軍大臣の聲明

國際情勢

最近世界外交史 前・中・後編

芦田均 編著

昭和九 菊判 明治圖書株式會社 各四・八〇
前篇(七二五頁) [ピスマルク時代より世界大戰までの外交史をアラン
デンプルヒの原著により編む]
中篇(七〇一頁) 世界大戰中の外交 休戰及平和 大戰後の歐洲
後篇(六四八頁) アメリカ合衆國 軍備縮小會議 ソヴェート・ロシア
の外交 大戰後の中華民國 滿洲事變

最近世界の外交

鹿島守之助等著

昭和一〇 四六判 二八四頁 章華社 一・五〇
最近歐洲の外交(鹿島守之助) 最近米國の外交(赤松祐之) 最近極東外
交(林毅陸)

初歩國際讀本

平野等著

昭和一一 四六判 四一二頁 東白堂 一・四〇
ヨーロッパ篇(ヨーロッパ紛争の解剖 ドイツの勃興 植民地再分割論
フランスの恐怖 宿命的な獨佛の争ひ フランスの作戦 イギリスの立
場 大イギリス帝國の悩み ボーランドの立場 噴火山上のバルカン半
島 今後の諸問題 伊エ戦争後の新形勢) 太平洋篇(太平洋問題とは

支那事變と東亞の將來

佐藤清 勝著

昭和七 四六判 三八七頁 春秋社 一・五〇
事變と支那の排日外交 滿洲事變の經過 天津事變の經過 上海事變の
經過 國際聯盟に於ける論戰 事變に對する列國の態度 失敗外交の累
積 世界政局裏面の觀察 東亞の將來と對策

上海戦と國際法

信夫淳 平著

昭和七 四六判 五二七頁 丸善 三・〇〇
事變の發端 上海戦の性質 敵の兵器及び兵器 上海戦と共同租界の關
係 敵地財産の加害 實行に至らざりし平時封鎖案 敵の潰走及び停戰
宣明 占領地の暫行的行政 停戰協定の成立及び我軍の撤退 上海の將
來

北支事件の全貌

國際パンフレット
通信第八二二號) タイムス通信社編

昭和一〇 四六判 四三頁 タイムス通信社 非賣
昭和十年の北支事變の概観

北支問題と世界の輿論

國際パンフレット
通信第八二六號) タイムス通信社編

昭和一〇 四六判 七二頁 タイムス通信社 非賣
[昭和十年北支事變に對する「各國紙に現れる批評の概観」] 代表的各國新
聞論調(を譯編す)

太平洋に於けるロシアの位置 太平洋に於けるイギリスの位置 太平洋
に於けるアメリカの位置 日本と南太平洋) 支那篇(支那の全貌 列強
の支那侵略) アメリカ大陸篇(中南米諸國と日本 アメリカの中南米侵
略 汎米會議の意義) アジア諸民族の勃興篇(日本の進展 幾多の新興
國) 列強の軍備篇 世界の今日日篇 附(世界の動向日記)

昭和十年の國際情勢

赤松祐之編

昭和一一 四六判 五二八頁 日本國際協會 二・二〇
亞細亞(日滿對蘇關係 日滿關係 日支關係 日本の經濟外交 日本
の對國際聯盟問題 フィリッピン(の獨立) 歐洲(概説 第七回コミンテ
ルン大會と列國の抗議 ギャール國民投票 メール問題 獨逸の爆彈宣傳
戰敗小國の再軍備問題 對獨包圍陣 ヒトラーの外交宣言 英獨海軍協
定 伊エ紛争 ロンドン海軍縮小會議 國際聯盟の事業) 南北米(概
説 米國に於ける排日問題 米國債務交渉の決裂 國際法廷加入案の否
決 米國中立維持法 米國の通商政策 チェッコ紛争の解決)

昭和十一年の國際情勢

赤松祐之著

昭和一二 四六判 七九四頁 日本國際協會 二・八〇
亞細亞(日・滿・蘇關係概観 國境問題 北樺太石油試掘權の問題 日
蘇漁業條約改訂の交渉 對滿治外法權の一部撤廢 日滿工業保護協定
蘇聯領事館保護協定 凌陸の通蘇事件 蘇蒙相互援助條約 日支關係概
説 對支三原則 北支密輸入問題 北支駐屯軍の増遣 北支問題 抗日
統一戰線運動 テロ事件の頻發 各地の抗日事件 南京政府の對日態度
日支交渉緩東問題 統一途上の支那 列國の對支援助 基隆事件

日獨防共協定 日伊協定 日濠通商戰 日埃通商交涉 日米通商交涉 日蘭會商 日印會商 滿獨通商協定 歐洲概觀 海峽條約の改訂 ロンドン海軍會議 英蘇海軍協定 英埃條約の締結 エドワード八世の御退位 蘇聯の憲法改正 蘇聯の反政府陰謀事件 獨逸のロカルノ條約破棄 ロカルノ會議 第八回ナチス大會 獨逸の國際河川條項破棄 蘇佛相互援助條約 佛波の接近 フランの切下 白耳義の中立復歸 中歐プロックの結成 伊エ紛争 西班牙の内亂 國際聯盟 南北米(概説) 米國中立法 米國大統領の選舉 特別汎米會議 太平洋會議 伯國移民法 アマゾナス州土地コンセッション問題 ブラジル經濟使節團の來朝)

現代の外交

鹿島守之助著

昭和一二 菊判 四三五頁 外交時報社 三・〇〇
平和問題(新平和主義 新平和機構の提唱 太平洋展望 太平洋防備制限問題 聯盟の改組と汎ヨーロッパ問題 平和工作) 再軍備(日米建艦競争と英獨建艦競争 軍縮會議と國際情勢 再軍備の打診 新舊軍國主義の本質) 外交の本質(外交統制の急務 外交と戦争に關する若干の考察 國民外交の本質) 極東外交(天羽聲明の波紋 北鐵讓渡交渉の成立 滿洲國治外法權の撤廢 我國初期の條約改正の回顧 日獨防共協定 危機を孕む現下の國際情勢 北支事變) 歐洲問題(伊・エを繞る國際紛争 神聖なる利己主義 エチオピアの悲劇 伊國の勝利と英國 英國と集團的平和機構 佛露相互援助條約 ロカルノ條約廢棄と歐洲新平和機構 動搖の歐羅巴 スペインの内亂 歐洲新民主プロック結成)

國際時事解説

外務省情報部編

昭和一二 四六判 四〇五頁 三笠書房 二・〇〇

抗日人民戦線 聯盟から蘇聯へ 日蘇支の軍備 第二次五ヶ年計畫 日蘇若し戦はゞ 追補 學良兵變とその波紋 (昭和十二年「隣邦支那とロシア」と改題)

赤色アジアか防共アジアか

中保與 著作

昭和一二 四六判 四五〇頁 ダイヤモンド社 一・五〇
人類の分裂 赤色支那の再建 ソヴェト帝國のアジア奪略 國民黨と共產黨 コミンテルンの大覇業 抗日人民戦線派行狀記 支那共產黨の前途 滿洲を襲ふ赤色の嵐 喰はれる外蒙共和國 防共戦線の陣營を見る 滿獨協定を繞る日・滿獨 飛躍する滿洲國と冀東 新獨裁王國建設の夢 斷崖に喘ぐ南京政權 北支政策遭遇戰 饑える北支の民衆 前期防共自治政權顛末 北支事變の合法性 北支對日經濟の一展望 宿命の北支を想ふ

日獨防共協定の意義

松岡 洋 右著

昭和一二 四六判 一三八頁 第一出版社 六五
日獨防共協定の意義と我が外交の回顧 日滿獨の親善とその強化(序言 滿獨通商協定 日獨防共協定 防共協定と中華民國 日滿獨親善の世界的意義) 附録(日獨防共協定の全文 外務省聲明 日獨防共協定の意義(外務省情報部) ドイツの對共產主義宣戰(ゲッベルス))

世界再分割時代

清澤 冽著

支那事變 支那事情 西班牙を繞る各國の動き 動搖する歐洲政局 日獨協定と永代借地權撤廢 資源再分配問題とコンゴ盆地條約 赤軍清掃事件と乾岔子島事件 各國事情 國際會議其他 昭和十一年の國際政局

現實國際法諸問題

立 作太郎著

昭和一二 菊判 一六一頁 岩波書店 八〇
國際法上の制裁 國際法上の承認 内亂の場合に於ける國際法關係 國際法上の戰時中立 常設國際司法裁判所の決定に現はれたる國際法上の主要觀念及其學說上の背景

朝日東亞年報

昭和十二年

朝日新聞東亞問題調査會編

昭和一二 菊判 四六九頁 朝日新聞社 三・〇〇
日本 滿洲國 支那 ソヴェト聯邦 比律賓 佛領印度支那 暹羅 英領馬來 蘭領東印度 濠洲 新西蘭 英領印度 東亞時事問題(滿洲國 支那 ソヴェト聯邦 其他の問題)

赤化・抗日・防共

長谷川 了著

昭和一一 四六判 三二七頁 昭森社 一・〇〇
東亞の風雲 滿洲國・北支蒙古 支那とソヴェト 蘇支提携と日本聯俄から斷交へ 支那赤化の發展 日獨防共協定の波紋 日獨を中心として 世界を惱ますコミンテルン ソヴェト蒙古の出現 支那の

昭和一一 四六判 四五二頁 千倉書房 一・五〇
空腹國と滿腹國(私有領土から世界有へ 日本の主張の變遷 無産國と有産國の衝突) 國際水平運動の發足、政治輿論の進展 有色人種の指導 日本倍加人口の捌け口) 世界植民地分割史(細目略) 世界重心の移動(歐洲から太平洋國へ 左翼的帝國主義的批判 世界帝國主義的分析 プロック的新國際主義) 解決への途(植民地問題の解決諸案 植民地處分の私案 日本をとるべき國策) 附(國家間の新策を求む(コロネル・ハウス)等

植民地の再分割

朝日時局讀 本第七卷

東京朝日新聞東亞問題調査會編

昭和一二 四六判 二九二頁 東京朝日新聞社 豫約
植民地再分割へ(世界軍擴の現状 世界大戰と國際聯盟 植民地再分割の提唱) 植民と植民政策 昔の植民の話 現代の植民の話 大戰直前の世界地圖 平和條約と地圖の塗換 地圖の色は褪せる 植民地再分割論の擡頭(持てる國 持たざる國 人口問題解決の諸方策 偏つた資源の配分 本國商品の販路としての植民地 國家の威信にかけて) 持たざる國は行動する(持たざる國は行動する イタリーのエチオピア攻略 動くナチスの觸手 スペイン内亂と獨伊の干渉 日本大陸と滿洲・北支問題) 持てる國々の反應(持てる國は焦慮する どうすれば紛争は回避されるか 植民地・資源調整論 原料獲得の諸障礙 國際聯盟資源委員會の活動 いはゆるコンゴ盆地條約とは 持たざる國々を縛らんとする努力 持たざる國の不満・鎮靜か昂進か) 結び・危機に歩む(平和主義の限界 軍縮から軍擴へ 國際破局の覺音)

人口・資源・植民地

全體主義思想の展開

阿部源 一著

昭和一二 菊判 三三九頁 巖松堂 二・八〇

國家と世界經濟 植民地獲得戰 少數國の資源獨占 資源利用に關する諸制限 ドイツの植民地恢復要求 イタリーの海外膨脹要求 日本の人口壓力と滿洲事變 植民地無價値論と其の批判 植民地及資源問題の對策

波高し太平洋

米國とその極東政策

藤岡 啓著

昭和一一 四六判 五三〇頁 大阪毎日新聞社 一・五〇

政治・外交・軍備(覇權を旨とする米國の政治 覇權を旨とする米國の外交 無敵艦隊を旨とする米國の海軍 米國と日滿支關係の將來) 財政・經濟(比類なき米國の財政 覇權を旨とする米國の經濟 米國と日滿支經濟の將來 必要なる太平洋問題の再吟味)

南進論

室伏高信著

昭和一一 四六判 三三一頁 日本評論社 一・〇〇

なぜ此の書を書くか 先づ今日の認識 日本の夢 日本の世紀へ 内か外か 一步たちどまれ 日本の敵は誰か アメリカはどうか ロシヤは敵か味方か ロシヤへの一瞥 國防の問題 陸軍か海軍か 大陸政策か 南方政策か 支那をどうする 支那は敵か味方か 侵略か解放か 日英關係の再認識 英國の再認識 日本海軍のために 視野を大にして 處女地南洋 若き大陸の方へ 南洋と日本 南へ南へ 王者の道 附(南方大觀)

太平洋及び濠洲

世界の明日(叢書第二卷)

滿川龜太郎著

昭和八 四六判 二二五頁 平凡社 豫約

太平洋とは何ぞ 太平洋と大洋洲 太平洋の沿革 太平洋諸島概論 濠洲及新西蘭 太平洋を繞る諸問題(日米關係及米支關係 シンガポールを中心として フイリッピン獨立問題 蘭領諸島の諸問題 黑人問題) 南洋委任統治地問題 日本の將來と太平洋

太平洋を繞る國々

別枝篤彦著

昭和一一 四六判 七一四頁 章華社 三・八〇

太平洋を中心に(プロローグ 太平洋の黎明 神々のわざー太平洋の自然 太平洋と精神 國際關係の展望) 太平洋を繞る國々(シベリヤ 滿洲國 支那 佛領印度支那 シヤムと英領マラヤ フイリッピン 蘭領印度 オーストラリア ニュージラランド アラスカ カナダ 北米合衆國 メキシコ 中米諸國 コロンビアとエクアドル ペルー チリ 結び)

露國の心臓を衝く

東京日日、大阪毎日新聞社編

昭和一一 四六判 二一七頁 東京日日新聞社 五・〇

政治篇(政治機構 ゲー・ペー・ウィー 言論機關 コミンテルン) 外交篇(トロツキー時代 チェエレン時代 リトヴィノフ時代) 産業篇(異色の産業界 五年計畫の進展 經濟の重心漸次極東へ) ソ聯邦産業の缺陷

重大意義を持つ鐵道) 國防篇(赤軍の實體 國防第二線 復興目醒しき海軍 極東軍備の現勢 目醒しき航空界) 人物篇 明日の領域(極東シベリヤの諸建設について) 對極東關係(日ソ關係 滿ソ關係 ソ聯邦の傀儡・外蒙古 ソ聯邦勢力下の新疆 ソ聯邦屬領化の唐努烏梁海) 抗日プロックとしてのソ聯邦 支那共產軍 南京政權

「ソ」聯邦ノ政治及經濟組織

外務省調査部編

昭和一一 菊判 二〇二頁 外務省 非賣

「ソ」聯邦の政治組織(統治權 聯邦ト構成共和國トノ關係 統治權ノ客體) 「ソ」聯邦ニ於ケル外國人 「ソ」聯邦ノ經濟組織(通貨制度及物價政策 國內商業 對外貿易) 「ソ」聯邦ノ船舶事業 「ソ」聯邦ノ工業 「ソ」聯邦ノ農業 配給制度 國家ノ産業獨占政策)

ソヴェート・ロシヤ讀本

茂森唯士著

昭和一一 菊判 三五二頁 橋書店 一・三〇

獨裁政治の話 ソヴェート體制の話 新憲法の話 共產黨の話 コミンテルンの話 赤軍の話 赤色海軍の話 航空の話 トーチカの話 外交の話 日滿關係の話 滿ソ國境の話 極東露領の話 G.P.U.の話 内政の話 計畫經濟の話 ルーブルの話 重工業の話 輕工業の話 農業の話 コルホーズの話 交通の話 外國貿易の話 労働の話 男女關係の話 教育の話 新聞の話 文學の話 スポーツの話

隣邦ロシヤ

秦彦三郎著

昭和一二 四六判 三六五頁 斗南書院 一・三〇

ソ聯の真相

吉村忠三著

昭和一二 四六判 三三〇頁 偕成社 一・六〇

ソ聯の正しき認識のために ロシヤ人を憶ふ 移り行く市民生活 變る農村 現地に見る專制政治 憲法改正の意圖 赤軍とところどころ ロシヤはどう動く?

赤軍は嘲笑ふ

國際情勢研究會編

昭和一二 四六判 三〇〇頁 國際情勢研究會 一・〇〇

赤軍の内情を衝く(キエフ暗殺事件から赤軍清掃まで ソヴェートの暗黒面(チェンバリン) スターリン政權に排戦す(トロツキー) 赤軍の全貌(如何にして赤軍は創設されたか(ラポルト) 赤軍の現勢力を曝ぐ(バイウオーター) 發展途上の赤軍(トヘチエフスキー) ソ聯共產黨の相剋(「募り行く共產黨の内訌(イワノヴィッチ) 反スターリン陰謀團(バートレット) トロツキストを清算せよ(スターリン) スターリンの制覇(幹部派と反幹部派(シェツプファー) スターリンの勝利(フィッシュヤ) スターリン的獨裁の缺陷(カルヴァートン) ゲー・ペー・ウィーの

真相 (ロシアの密偵制度(ブルツェフ)ゲー・ペー・ウー海外工作(ベエー)) 附(共產黨内訌史)

ソ聯の智識 (時局智識シ)

室伏高信編

昭和一二 四六判 三四九頁 青年書房 一・三〇

ロシア果して恐るべきか(成田精雄) ロシアの本體を衝く(茂森唯士) 赤軍の全貌(笠原幸雄) 赤軍大陰謀事件の真相(茂森唯士) 懐え上る赤軍(三島康夫) ソ聯反幹部派陰謀事件の解剖(中村伸) コミンテルン東洋部の正體(武藤貞一) 大轉換期の財政經濟(伊部政一) 工業化の新局面(富士辰馬) 農業政策の進展と農民生活の現状(直井武夫) ソ聯最近の協調外交(嘉治隆一) ソヴェイト法の概観(山之内一郎) 文學展望(米川正夫) 教育・新聞(外村史郎) 演劇・映畫(八住利夫) スターリンを批判する(レオン・トロツキー) トロツキー派の清算(ヨシフ・スターリン)

風雲の滿ソ國境

茂森唯士編

昭和一二 四六判 三四四頁 太陽閣 一・二〇

滿ソ國境論(岩田孝三) 滿ソ國境の風雲と蒙古(長谷川了) 滿ソ蒙の國境(田中香苗) 滿ソ滿蒙國境紛争事件(茂森唯士) 極東赤軍々備(清水久) 滿ソ黑龍江艦隊と其配備(海の一士官) 謎のブリニツヘル(三島康夫) 極東露領の建設(遠藤一郎) 大アムールを遡る(田中香苗) 大黒龍の印象(茂森唯士) 東部國境踏破記(出原忠夫) 外蒙國境を往く(綾川武治) ソ聯の對滿諜報活動(田邊覺) ソ聯に於ける反日活動(高谷覺藏)

蘇聯を監視せよ (第一出版時)

池崎忠孝著

局叢書第二

ソヴェイト社會主義共和國聯邦憲法ソ聯邦二十年史曆 ソ聯邦國勢統計資料) 日ソ滿關係の部(日獨防共協定と日ソ關係 第七十議會と對ソ問題 第八回ソヴェイト大會と對日輿論 極東軍備 滿ソ滿蒙國境問題 支那に於ける赤化問題 北洋漁業 利權關係 通商關係 交通關係 ソ聯の對日輿論) 附録(日露媾和條約日ソ基本條約 日ソ漁業條約 最近ソ聯邦全圖)

日露年鑑

昭和十三年版 日露通信社編

昭和一二 菊判 一一一八頁 日露通信社 一〇〇〇

ソヴェイト聯邦の部(國家組織 全聯邦共產黨 コミンテルン 軍事國防航空事業 外交 反政府陰謀事件 外國貿易 內國商業 財政金融 勞働 五ヶ年計畫 産業 極東建設 交通 文化 外人の觀たソ聯邦 ソ聯邦國勢概観 ソ聯邦重要人物略歴) 日滿ソ關係(政治 外交 日ソ間條約 滿ソ關係 對ソ利權 北洋漁業 公海漁業 通商關係 交通) 外蒙及新疆(赤化の外蒙及新疆)

昭和一二 四六判 一三八頁 第一出版社 八〇
蘇聯對日方策の表裏(蘇國の眞意 外蒙の態度 蘇蒙の提携 曖昧な支那對滿赤化工作 戰備の充實 滿洲國包圍計畫 蘇國の弱點 和戰兩様の肚) 現下蘇聯の對日方策(蘇支不可侵條約の正體 一種の對日ゼスチニア) 蘇聯の複雑なる心理 日獨防共協定の效果 蘇聯監視の要) 蘇滿國境の戰略的狀勢(蘇國の戰備 滿洲事變と蘇國 戰略的狀勢 蘇國の眞意) 日蘇戰爭の戰略(日蘇戰爭の可能性 ロシア人の戰爭宣傳 蘇が開戦のイニシアチヴ 日本が開戦のイニシアチヴ 蘇軍の戰闘力 最悪事態に處する日滿軍 日滿軍に對する鑑戒)

謎のロシア

新舊ロシアの全貌

昇曙夢著

昭和一二 四六判 三三七頁 大東出版社 一・五〇

文明史上の畸形兒 ロマノフ王朝没落の悲劇 ロシア國民性の解剖 民俗風習の特異性 革命前奏曲 過渡期のソヴェイト社會相 明暗モスクワ新風景 五ヶ年計畫下の社會情勢 宗教彈壓を繞つて 恐怖政治の裏面 反革命陰謀物語 問題のソ聯巨頭論

蘇聯邦年鑑

一九三七年版 日蘇通信社編

昭和一二 菊判 一三四九頁 日蘇通信社 一〇〇

ソ聯邦の部(政治組織 新憲法解説 全聯邦共產黨 コミンテルン 法制 赤軍 外交 反幹部陰謀事件 資源 極東露領 第二次五ヶ年計畫 通貨 財政 國債 重工業 輕工業 農業 航空 外國貿易 勞働 民族 學術 美術 重要人物總覽等) 附録(スターリンの憲法草案報告)



非常時經濟

産業日本の實力

岡田博 道著
昭和八 四六判 二五五頁 同文館 一・〇〇
現實の日本 日本の人口問題 極東解決主義 日本の食糧需給問題 主要原料品問題 重要工業品問題 我國の産業恒久策

日本經濟の伸展性

小島精一 等著
昭和八 菊判 三五七頁 千倉書房 一・六〇
日本經濟の伸展力 産業伸展力に於ける農業の役割 重要工業の伸展力 日本産業の伸展と海外貿易 國力發展と滿洲資源の重要性

國民經濟讀本

土方成 美著
昭和九 菊判 二二二頁 日本評論社 一・〇〇
世界經濟の現状と「非常時」の意義 經濟と國家 歐洲大戰以前の世界觀 並に經濟思想 經濟生活と精神 經濟と技術 現代經濟組織の特徴 現代經濟組織の機構 現代經濟組織に於ける金融の役割 現代經濟生活の發展と景氣變動 統制經濟運動 日本精神と組織經濟

世界を産業日本の神髓

相澤周 介著
昭和九 四六判 四六七頁 ダイヤモンド社 一・五〇

國民經濟とは何ぞや 明治以後の我が國民經濟 階級對立と國民經濟 國際紛争と國民經濟 我が國民經濟の前途

日本の現勢(財團法人啓明會)

青木利三 郎著
昭和一一 菊判 二〇三頁 啓明會 一・五〇
國情一斑 産業貿易 交通運輸 教育 美術文藝 社會事業 屬領地 租借地 委任統治地

日本産業と貿易の發展

三菱經濟研究所編
昭和一一 四六判 七三三頁 三菱經濟研究所 三・七〇
本邦經濟最近の發展 本邦産業發展の背景 基礎産業 主要工業 金融・保險・倉庫及運輸業 本邦外國貿易の進展 結論

新段階の日本經濟政策

高橋龜 吉著
昭和一一 四六判 四五二頁 千倉書房 一・五〇
新段階の日本經濟政策と其の一般的着眼點 現在日本の財政問題と其の對策 現下の我が金融問題と其の對策 産業・貿易・其の他に關する諸問題 對支並に滿洲・朝鮮政策

日本經濟發展の様相

沖中恒 幸著
昭和一一 四六判 五〇〇頁 協同出版社 二・三〇
最近經濟界の推移と問題 物價 金融 外國貿易 生産 非常時經濟

貧乏日本の彈力 艱難日本の玉成 窮迫日本の展開 脱殻日本の生彩 共存日本の繁榮 海國日本の天恵 綿業日本の壓力 勞働日本の本領

日本經濟の基礎知識

服部文四 郎著
昭和九 菊判 三七〇頁 明善社 二・九〇
日本經濟の基礎(日本經濟の現勢 日本の主要産業 日本の外國貿易 日本の資本 日本の金融 日本の取引 カルテル・トラスト及コンツェルン) 日本の經濟問題(金輸出再禁止の影響 我國の金問題 世界的不景氣と關稅戰 滿洲と國際經濟 爲替管理 國民經濟の自力更生 非常時の金融 米國の新平價切下げと我が財界に及ぼす影響)

日本經濟の進出と經濟國策の將來

谷口吉 彦著
昭和九 四六判 二四九頁 千倉書房 一・二〇
景氣好轉の真相とその發展策 ドル切下げの影響と圓切下げの將來 當面の産業革命と配給組織の變革 貿易統制の進展と日英・日印の問題 國際經濟の動向と經濟國策の將來

日本の力

渡邊 鍊 藏著
昭和一一 四六判 五〇二頁 章華社 一・五〇
總說 科學日本の力 工業日本の力 農業日本の力 貿易日本の力 交通日本の力 軍備日本の力 日本の力と世界列強の力

我が國民經濟の進路(國民精神文化)

作田莊 一著
昭和一一 四六判 六二二頁 國民精神文化研究所 二・〇

新日本の産業政策(東洋經濟パンフ)

東洋經濟新報社編
昭和一一 四六判 一〇二頁 東洋經濟出版部 二・〇
本邦工業の質的缺陷とその對策(西田博太郎) 我國新産業政策の基調(竹内謙二) 日本工業の特質に照し無益な干渉を排す(藤原銀次郎) 我が抱く産業國策(森蘆昶) 人口問題と貿易政策(上田貞次郎) 貿易參謀本部の設置を提唱す(上坂西三) 新貿易政策の根本方針(安川雄之助)

日本經濟及經濟政策

猪谷 善 一著
昭和一一 菊判 七三〇頁 一元社 六・〇〇
序論(國際的危機の諸相 國內的危機の諸相 轉換期社會・人・思想 日本國經濟の特徴) 日本國民經濟の現狀(日本産業機構の鳥瞰 日本産業と産業統制 勞働問題 外國貿易) 日本經濟政策(日本經濟政策概論 制度政策 人口政策 生産政策 對外經濟政策 國民生活の安定)

國際經濟問題の解説

大阪毎日・東京日日新聞社編
昭和四 四六判 四九九頁 一元社 一・八〇
國際共通の一般問題 財政及金融問題 本位制度を繞る諸問題 關稅及貿易問題 産業統制に關する諸問題 各産業部門に於ける若干の問題(有卦に入る世界軍需工業 世界石油爭奪戰の展開 米國造酒業の復活と景氣策的效果 日英綿業競争力の基礎 日本製鐵の成立と鐵鋼統制 電

非常時經濟

力統制問題 電力聯盟の結成 東株とマラソン金融問題) 農業恐慌と救済策問題 日滿ブロックの諸問題

世界と日本 (對恐慌工作裡の)

(政治經濟年誌)

東京政治經濟研究所編

昭和九 菊判 五〇六頁 岩波書店 二・五〇
ローザンヌ會議よりロンドン世界經濟會議へ 世界平和と軍縮會議 國際貿易の萎縮 關稅戰の激化と各國經濟對策 失業問題の趨勢と勞資關係 政黨政治の破綻 世界共產主義とその危機 米國金融恐慌とニュー・ディールの進行 オッタワ會議と英帝國ブロック經濟の動向 ナチス獨逸ファッショ伊太利の現状 ロシア五ヶ年計畫の終了とその後 日支紛争と國際聯盟 滿洲事變の推移と滿洲國 「非常時」下の政府及政黨 日本インフレーションと「景氣回復」 農村不安の増大と應急對策 救済の實際と政策の確立の停頓 企業組織と産業統制 資源・軍需工業並に統制經濟 附(世界日本政治經濟年表(自昭和六年一九三一年至同年一九三三年) 統計一覽表)

最近の貿易及貿易政策

平尾彌五郎著

昭和一二 菊判 三三三頁 一元社 二・三〇
世界及日本の最近貿易狀勢(再軍備下の世界生産と世界貿易 最近に於ける本邦貿易情勢 我が貿易國策と原料問題) 米國の貿易政策と對日關聯(米國關稅政策の發展 米國最近の對日貿易政策) 大英ブロックキズムの發展(オッタワ協定と世界市場 轉換期に立つ大英ブロック 英國のブ

世界編(國際通商の危局 ブロキズムの發展 通商防遏陣の布設 經濟軍縮の動向) 日本篇(本邦貿易發展の様相 對日防遏戰線の展開 世界市場に於ける日英の角逐 日滿協定の成立 日本通商の動向 戰時經濟體制と貿易)

日支經濟提携の動因と其將來 (調查資料)

(第四輯)

東洋協會調查部編

昭和一〇 菊判 五五頁 東洋協會 非賣
はしがき 北支事件の直接の動機 日本北支進出の根本動因 日本北支進出の政治的・軍事的要因 日本北支進出の經濟的要因 北支事件發生の助成的諸事情 北支事件の意義と資源開發の基調 日支經濟提携の將來

日滿支經濟論

猪谷善一著

昭和一〇 菊判 三五八頁 言海書房 二・五〇
日滿ブロックより日滿支ブロックへ 混亂のアジアより秩序のアジアへ

日滿支經濟問題講話

東京商工會議所編

昭和一一 四六判 四五七頁 巖松堂 一・九〇
世界經濟問題より見たる銀問題(荒木光太郎) 國防上より見たる日滿支の關係(山下奉文) 日支の經濟關係(桑島主計) 經濟統制と日滿支關係

非常時經濟

ロック強化政策) 英帝諸國の對日貿易戰線(英資本主義と印度と日本 滿洲市場に於ける日英の對立 日加・日埃通商關係の現實) 支那市場を繞る帝國主義對立(支那の新通貨政策と其背後 支那貿易に現はれた列國爭覇戰 北支特殊貿易の相貌) 佛獨貿易政策の動向(フランス貿易と貿易政策 ドイツの貿易政策と原料問題)

外經濟問題の解説 增補訂正

十二年版

大阪毎日・東京日日新聞社
エコノミクス 部編

昭和一二 四六判 五四〇頁 一元社 二・二〇
世界政治・經濟情勢總觀 主要諸國の財政狀態 金融及び幣制問題 産業政策と産業事情 貿易情勢及び通商政策 農民窮乏とその對策 勞働及び中小産業問題 一九三七年の國際經濟問題 準戰體制期の財政・金融 準戰體制期の産業・貿易

國民經濟と世界經濟 (國民精神文化)

類輯第二〇輯) 作田莊一著

昭和一二 四六判 九二頁 國民精神文化研究所 二・〇
國民生活と世界生活 國民經濟と世界經濟 國民經濟の意識的動向 世界經濟の無意識的動向 諸國民經濟と世界經濟との關係 世界經濟に於ける我が國民經濟の地位

國際通商戰 (朝日時局讀)

本第八卷) 東京朝日新聞經濟部編

昭和一二 四六判 朝日新聞社 三二七頁 豫約

(作田莊一) 滿洲現狀批判(大藏公望) 滿洲移民問題(高山三平) 支那最近の經濟事情(米里紋吉) 太平洋問題より見たる日滿支(神川彦松) 開發すべき北支の經濟資源(西山榮久) 支那及滿洲國に於ける金融問題(加藤敬三郎) 日滿支の貿易關係(木村増太郎)

日滿支經濟論

木村増太郎著

昭和一一 四六判 三三四頁 時潮社 一・八〇
日滿經濟ブロック論の再檢討 日滿經濟ブロックと日本鹽政の改革 滿洲經濟參謀本部論 滿洲國の産業政策 滿洲國の關稅政策 滿洲國の財政政策 日滿貿易の情勢 我が對滿國策の基調 日本國民經濟の特色と東亞經濟聯盟 支那より見たる日支經濟關係 支那の排日運動と對支政策の基調 日支貿易の展望 支那の進むべき途と探るべき方策 紊亂せる支那財政の真相 支那の金融恐慌と新幣制 支那の農業復興

日滿經濟五ヶ年計畫

小島精一著

昭和一二 菊判 二五六頁 春秋社 一・五〇
生産力擴充第一主義の確立 賀屋・吉野コンビの途 日滿産業五ヶ年計畫の全貌 建設計畫のブロック的合理化 五ヶ年計畫と産業統制(準戰時産業體制化) 滿洲五ヶ年計畫と新産業統制法の役割 五ヶ年計畫と勞働統制(併せて生活安定の問題) 五ヶ年計畫と爲替貿易統制 五ヶ年計畫と金融統制 附(ナチスの統制に於ける民間實業家の指導的役割 ナチスの産業統制組織と指導者原理の實際 我が工業組合の強化とカルテルの國策化)

非常時經濟

太平洋に於ける國際經濟關係 三菱經濟研究所編

昭和一二 四六倍判 六二二頁 三菱經濟研究所 四・〇〇
太平洋地域の範圍及地理 世界列強の太平洋に對する經濟關係(概観)
英國の太平洋に對する經濟關係 米國の太平洋に對する經濟關係 其他
列強の太平洋に對する經濟關係(太平洋沿岸諸國の經濟事情 日本の太
平洋に對する經濟關係(概略 日本の滿洲國及支那に對する經濟關係
日本の東南洋英領諸國に對する經濟關係 日本の其他東南洋諸國に對す
る經濟關係 日本のアメリカ太平洋沿岸諸國に對する經濟關係) 結論

日本國家主義と經濟統制 作田莊一著

昭和九 四六判 一三八頁 青年教育普及會 七・〇
國家と社會 國家主義と社會主義 國家社會主義 國家主義に據る經濟
統制

新經濟讀本(統制經濟の話)

昭和九 菊判 一六六頁 日本計畫經濟社 七・〇
變革途上にある國民經濟 統制經濟とは何か 社會主義經濟計畫と資本
主義經濟統制 産業合理化より經濟統制へ 我國に於ける經濟統制運動
農業經濟の統制 中小商工業の統制 貿易の統制 金融の統制 重要産
業の統制 産業動員計畫 日滿經濟の統制 經濟參謀本部とは何か 歐

米諸國に於ける經濟統制 ソヴェート・ロシアの計畫經濟 世界經濟の
統制運動

統制經濟講話

昭和一一 四六判 二四五頁 時事新報社 一・〇〇
統制經濟機構論 統制經濟原理論 我國産業の重要度調査

統制經濟讀本

大阪毎日・東京日日新聞社編
エコーノミクス 部編
昭和一一 四六判 五七〇頁 一元社 二・二〇
總論(歐米諸國の統制經濟事情を述べ) 本邦統制經濟とブロック國策
財政金融の統制 産業統制論 原料國策の確立問題 むすび

經濟統制下の日本

有澤 廣 巳著
昭和一二 四六判 四六〇頁 改造社 一・五〇
本邦石炭業統制の概観 本邦鐵鋼業統制に於ける諸問題 石油工業の統
制 洋灰カルテルと過剰能力 化學肥料の統制 綿絲紡績業の統制 綿
布業に於ける統制 本邦人絹工業の躍進とその統制 陶磁器業の構成と
その統制 麥酒トラストの統制 蠶絲業統制序論 農業統制機關として
の産業組合 輸出統制の展望 公開市場政策とその限界

戰時經濟と金融(銀行叢書 第二〇編)

森 武 夫著
昭和九 菊判 九〇頁 東京銀行集會所 非賣

世界大戰前の諸戰爭と國民經濟 最近世界大戰と國民經濟 國防と國の
經濟力との關係 戰時必要な食糧及軍需品 戰時軍需品の補給と工業
動員 工業動員の可能性増大 工業動員の方法 軍需工業利潤の統制
労働の保護及國民生活の保證 次の戰爭と經濟統制 工業動員の平時準
備 平時經濟に對する國防の要求 國際危機と金融 開戦當初に於ける
通貨供給 戰時中の貨幣制度 支拂猶豫の實行 戰時の株式取引所及商
品取引所 資本發行の制限及融資 外國爲替の統制 戰時インフレーション
の問題 戰爭に要する經費 戰費の遣繰 我國の國防資源 戰時の
食糧問題 戰時の被服問題 戰時の軍需工業資源 戰時の對外交渉 日
滿ブロックの戰時的價值

昭和一二 四六判 三一二頁 朝日新聞社 豫約
自由か統制か 經濟統制の發展 軍需生産の問題 インフレへの發展
生産力の擴充へ 物價の昂騰

戰爭經濟讀本

齋藤 直 幹著
昭和一二 四六判 二一九頁 今日の問題社 八・〇
慢性的小軍擴から飛躍大軍擴へ 軍事費の急増と國家財政 國防上から
見た金融産業の統制 軍備擴充と國民生活

戰時社會經濟體制

小濱 重 雄著
昭和一二 菊判 三一頁 松山房 二・八〇
總論 異常經濟の根本問題 戰時の獨逸經濟組織 戰時の英國經濟施策
米國戰時の産業方策 ソ聯邦戰時諸方策 其他列國の戰時施設 産業
國家管理の研究 結論

戰時經濟の基礎知識

岩井良太郎著
昭和一二 四六判 三三〇頁 千倉書房 一・二〇
近代戰爭編 公債・租稅篇 金融篇 産業篇 物價篇 資源篇 農業篇
附(戰時關係法規集 支那事變關係十一法律集)

戰爭と物價(戰爭經濟叢書 第一編)

戰爭經濟研究會編
昭和一二 四六判 一三三頁 大同書院 七・〇

非常時日本の國防經濟

森 武 夫著
昭和一〇 四六判 二四九頁 軍人會館事業部 八・〇
戰時經濟と金融 戰時の農業と食糧政策 列強の國防と資源 我國の國
防資源 國防と工業生活 非常時の國防と財政經濟 戰時國民の經濟生
活

現代の國防と産業

石原 戒 造著
昭和一〇 四六判 二二二頁 學而書院 一・二〇
國防の本義 軍需品の統制 産業の要素 人員問題 食料問題 戰時の
貿易 外交と産業 船舶問題 本邦産業界の趨勢 動員と經濟組織 提
携協和 椽の下の力持 復員 米國の産業動員計畫 戰爭と獨逸經濟

準戰時統制經濟(朝日時局讀本 第五卷)

東京朝日新聞論說委員編
非常時經濟

非常時經濟

戰時經濟下の物價 一般物價騰貴 食料品の價格騰貴 勞賃の變動 物價と勞賃 生活程度 物價政策 休戦の影響

戰時體制と日本

聯合情報社編

昭和一二 菊判 三四三頁 同社 二・〇〇
當面日本の實相 殖える人口 國富と國民所得 乏しい資源 行政機構はどうなつてゐるか 財政の膨脹ぶり 特別會計のいろ／＼ 公債を解剖する 恩給は累増する 地方財政の急務 國防と陸軍 國防と海軍 國防と總動員計畫 軍事費と列國 産業の展望 金融機構と金融統制 貿易の統制 交通通信機關の威力 社會政策をどうする 日滿産業ブロツク 準戰時體制より戰時體制へ

戰時經濟の知識 (時局シリ イズ第四)

室伏高信編 清澤 列編

昭和一二 四六判 三三七頁 青年書房 一・三〇
國防經濟學 (吉田秀夫) 國防經濟の必然性 (太田義夫) 戰時體制下の財政 (林要) 國家總動員計畫競爭時代 (岡野鑑記) 戰時に於ける勞働統制問題 (山下英夫) 長期戰下の消費統制 (伊藤好道) 輸入統制と消費統制 (谷口吉彦) 貿易と國防の依存關係 (谷口吉彦) 將來戰の戰費は幾何か (野口豊) 兵器工業に於ける國營論と民營論 (齋藤直幹) 戰費恐るゝに足らず (石山賢吉) 準戰時體制と生命保險 (近藤文二) 列國の戰時財政々策と其の將來 (ヘルマン・パントレン) 列國の軍需工業 世界大戰に於ける英國の資源管理と價格及利得統制 (カルル・レーメルマ)

戰爭と經濟

有澤廣巳著

昭和一二 四六判 三四七頁 日本評論社 一・八〇
時工業體制の發展 戰時貿易體制の完成 戰時海運體制の整備 戰時農業體制の發展 戰時消費配給體制の展開 戰時物價體制の方策 戰時勞働體制の方向 國家總動員と國民の覺悟

戰時體制下の景氣觀

木村孫八郎著

昭和一二 四六判 三六二頁 太陽閣 一・五〇
景氣の見方 準戰下の經濟構造 準戰下の景氣變動 戰時體制と景氣

戰爭と増税

山崎源太郎著

昭和一二 四六判 三二六頁 橋書店 一・五〇
緒論 もう戰爭は始まつてゐる 戰費は幾ら要るか 戰費はどうして調達するか 何を増税するか 恐るべき戦後の増税 準戰時税制と最近の増税 戰時増税の行方を突く 戰時税制の寵兒を解剖す 戰費は誰が負擔するか 結び

「準戰時」下の財政と經濟

高橋龜吉著

昭和一二 四六判 四二二頁 千倉書房 一・五〇
「準戰時」財政經濟と悪性インフレ問題 増税及税制改革案と其の金融經濟への影響 「準戰時」經濟體制と統制問題 「準戰時」財政下の我國景氣の動向

非常時經濟

ン) 戰時に於ける米國産業力の指導と利用 (ハリス)

銃後の財政經濟

賀屋興宣著

昭和一二 四六判 五九頁 河出書房 七〇
銃後の財政經濟 (戰費はどうなるか 我が經濟力は大丈夫 此際如何なる政策が必要か 物資及び資金の調整 生産力擴充資金はどうする 貿易を如何に調整するか 選擇的消費節約の必要 物價騰貴の對策 豫算の節約 公債並びに金融政策の圓滑なる運用 爲替水準は堅持する 金増産の急務 經濟三原則の強化 結語・「心」の用意が必要) 臨時資金調整法解説 (總説 事業資金の調整 興業債券の發行限度擴張 増資及び社債の發行に關する商法の特例 貯蓄債券の發行 金融事項の調査 罰則その他)

戰爭の經濟學

勝田貞次著

昭和一二 菊判 四〇一頁 春秋社 一・八〇
戰爭經濟學の内容と對象 戰爭原因論 戰時時代の財界現象 戰爭と國力發展論 戰費論 戰爭と國家財政 戰爭とインフレーション 戰爭の物價貨銀に及ぼす影響 戰爭と株式界 戦後の經濟界 戰爭と財閥 戰時經濟政策論 戰時に於ける各國の經濟政策

戰時經濟體制と其前途

藤岡啓著

昭和一二 四六判 四三〇頁 太陽閣 一・五〇
戰時經濟體制の重大化 戰時財政體制の躍進 戰時金融體制の整備 戰

産業動員計畫 (日本統制經濟 全集第六卷)

有澤廣巳著

昭和九 菊判 三〇六頁 改造社 一・二〇
世界大戰の大いさ 戰時原料統制論 産業動員組織論 纖維工業統制論 戰爭と石油 世界の兵器工業 英國軍需品法

産業技術動員

資源整備調査局編

昭和一〇 四六判 一六二頁 資源整備調査局 二〇〇
序説 資源戰と産業動員 技術研究施設の現況 軍需工業技術雜錄

戰時産業施設考

小濱重雄著

昭和一二 菊判 二六一頁 巖松堂 三・〇〇
序説 戰時農業施設 工業上の戰時施設 産業技術動員の基礎的考慮

世界大戰に於ける米國總動員概況

ウイロビー著 資源局譯編

昭和九 菊判 二九二頁 松山房 一・八〇
一般行政問題 食糧動員 燃料動員 勞働動員 産業動員 貿易動員 交通動員 航空動員 財政動員 科學動員 公報機關動員 敵國人及其の支授者の統制 戰時危險保險 結論

戦後の經濟動向

野澤秀信著

昭和一二 四六判 三六四頁 太陽閣 一・五〇
序論 戰時財政の發展と整理 日清・日露兩役及び歐洲大戰の教訓 戰

後の産業貿易政策 列強のブロック建設運動 資源政策の展開 綿業の危機と光明 重工業國への轉換 戦後北支工作の新段階 北支の資源と産業 支那の赤化とわが大陸政策 結論

戦後の經濟に備へよ

勝田 貞 次著

昭和一二 四六判 三一〇頁 千倉書房 一・二〇
戦後に來るもの(概論 財政膨脹の方向 戦後の金融機構 戦後に於ける經統制の方向 戦後の國際政局 第二次世界恐慌か第二次世界戦争か 戦後經濟政策の出発點) 今次戦後經濟の特徴(從來の戦後と比較して 歐洲大戰との比較 戦時戦後の企業界の動向 輸出入制限と事業界) 補遺(戦後一般經濟の方向) 歴史的に見たる日本戦後の現象(日清戦後の現象 日露戦後の現象)

日本農業の展望

農業經濟學會編

昭和一〇 菊判 八二六頁 岩波書店 五・〇〇
國民經濟に於ける農業 農業の經濟的構造 地域的考察 農業教育

戦時農村対策資料

帝國農會編

第一輯(一六一頁)支那事變下に於ける各道府縣農會の農村対策
第二輯(六八頁)歐洲大戰下の參戰列國の農業政策
第三輯(一一六頁)支那事變下に於ける中央官廳並に農業團體の農村対策

東京工業大學工業調査部編

昭和一〇 四六判 二三七頁 萬有社 豫約
總説「日本工業の特性」統計に現はれたる日本工業品進出の實勢(各種工業部門に關する個別的な研究 討論(仕向地の地理的差異と輸出工業品の改善 仕向地に於ける習慣・風俗・趣味の變遷と其の對策 窯業品に於ける技術的改善 既成工業の批判と新工業創立の提唱 外十二篇)

工業日本精神

藤原 銀次 著

昭和一〇 四六判 二六六頁 日本評論社 一・二〇
我工業の驚異的發展 國民的特性に基く躍進 好機逸すべからず 米國工業の現状を觀る

日本工業發展論

高橋 龜 吉 著

昭和一一 菊判 四八〇頁 千倉書房 二・〇〇
日本工業の特質と飛躍の眞因 最近に於ける日本工業發展の内容 日本經濟の飛躍が世界に與へし變動と政治的經濟的反響

新興工業の吟味

東京工業大學工業調査部編

昭和一二 四六判 三五五頁 叢文閣 一・五〇
化學工業部門 窯業部門 纖維工業部門 金屬機械器具工業部門 新工業經營形態としての農村工業化 工學研究及び工業教育問題

躍進日本の新興産業

村松 金 助 編

昭和一〇 四六判 二〇三頁 森山書店 一・二〇
非常時經濟

世界大戰に於ける各國の食糧政策(戰時食糧對策第三輯)

糧友會編

昭和一二 四六判 一六五頁 糧友會 五・〇
戰時食糧政策に就て 歐洲大戰に於ける英本國食糧政策 歐洲大戰に於ける佛國の食糧政策 歐洲大戰に於ける獨逸の食糧政策 戰時食糧對策 參考資料

圖解日本之工業

東洋工業會議事務局編

昭和一〇 菊倍判 五五八頁 工業圖書株式會社 一〇・〇〇
企業・經營・貿易 工業統制・規格統一 工業教育・試驗研究 工業所有權 工業從業員 土木 建築 都市計畫 交通 通信 採鑛・冶金 動力・燃料 金屬工業・機械工業 紡織工業 化學工業 窯業 飲食物工業 工藝 雜工業

日本工業政策(現代日本工業全集第三卷)

吉野 信 次 著

昭和一〇 四六判 三四六頁 日本評論社 豫約
歐洲大戰と我國工業の發達 第一回國際労働會議 基礎工業の確立 中小工業對策 工業金融 國產振興と國產愛用 産業立國と産業合理化 工業品規格統一と商品單純化 公共企業の監督 産業の統制

日本工業品躍進の技術的基礎

新興産業の展望 アルミニウム工業 マグネシウム工業 製鋼業の華「プリキ」 石炭の低溫乾溜 躍進する自動車工業 國產寫眞工業の擡頭 國產ミシン工業 製管界の新製品 曹達工業の躍進 森林飢饉とバガス工業 人絹工業の驚異的發展 人絹バルブ工業 ステーパーファイバー セロファン工業 恐慌打開の絹新製品 酵母工業の進出 ホップ五ヶ年計畫 沖取漁業の飛躍

日本新興産業讀本

岩井 良太郎 著

昭和一二 四六判 三六三頁 千倉書房 一・五〇
新興産業發展の諸事情 飛行機工業 自動車工業 アルミニウム工業 マグネシウム工業 ニッケル工業 石炭油工業 人造絹糸工業 ステーパー・ファイバー工業 セロファン工業 パルプ工業(特に人絹バルブ)

圖解商品の科學

佐久間 哲三 郎 著

昭和一二 菊判 四五四頁 國勢社 二・七〇
燃料 電氣 金屬 採製資料 工業藥品 窯業品 油脂と加工品 可塑品 纖維と製品 肥料と飼料 食糧品 酵素と醸造品 國防資料

生産力擴充産業讀本

國防産業の新體制 都新聞經濟部編

昭和一二 四六判 四八一頁 千倉書房 二・八〇
大國防經濟時代と工業ルネッサンスの實現 金屬工業 機械工業 化學工業 海運造船業 電力・液體燃料・石炭 金融・貿易・産金・勞働力

本邦鐵鋼業の國際的地位と其動向

民谷 昭著

昭和一〇 四六判 二二一頁 大同書院 一・五〇

世界の製鐵史 歐洲に於ける軍需工業としての鐵工業 最近の世界の鐵鋼業 日本の製鐵史 本邦鐵鋼業の原料的基礎とその特徴 隣邦に於ける鐵鋼資源と日本の依存性 本邦に於ける鐵鋼の生産 本邦鐵鋼業の國際的地位 輸出産業への轉換期にある本邦鐵鋼業 滿洲の鐵鋼業 日滿鐵鋼統制に就て 鐵鋼カルテル網の結成と其活動 本邦鐵鋼保稅・戻・免稅制度の改正に就て 本邦鐵鋼業の將來性

鐵鋼經濟讀本

小島 精 一著

昭和一二 菊判 三三六頁 千倉書房 一・五〇

日本鐵鋼業の世界的地位と飛躍的發展の可能性 日本鐵鋼業の基礎條件 日本鐵鋼業の現段階 日本鐵鋼業の發展政策 重要鐵鋼會社の擴充過程 日本鐵鋼業の對外進路

日本重工業讀本

小島 精 一著

昭和一二 菊判 三二二頁 千倉書房 一・五〇

重工業時代の到來(我が工業界の再編成 軍事費膨脹の重・化學工業 第一次インフレから第二次インフレへ) 日本重工業の特質(合理化と大經營化 企業の膨脹と多角經營化の途 内地原料資源の貧弱とプロック的開發の發展性) 飛躍期の鐵鋼業(恐慌期の鐵鋼業 軍擴時代の鐵鋼業 鐵鋼増産五ヶ年計畫) 重工業の基礎部門(炭坑業 液體燃料工業)

金屬工業) 機械・船・車・工業(第二次躍進時代の機械工業 造船事業 自動車及び航空機工業) 勃發過程の化學工業(軍擴期化學工業の大觀 化學肥料工業 曹達工業 染料・油脂・火藥工業 滿洲に於ける化學工業の勃發)

「物」の經濟

太田 正 孝著

昭和一二 四六判 三三三頁 中央公論社 一・三〇

總説 鐵鋼 非鐵金屬 纖維工業原料 化學工業製品 食糧品 ゴム・皮革 動力および燃料 完成品

本邦を中心とする石炭需給(經濟資料)

東亞經濟調查局編

昭和八 菊判 三一〇頁 東亞經濟調查局 一・五〇

總論(動力資源としての石炭 世界に於ける炭礦業の趨勢 本邦炭業略史) 需給(内地に於ける石炭の需給 植民地に於ける石炭の需給 滿洲に於ける石炭 支那に於ける石炭 其他) 企業組織及びカルテル的統制(企業組織 我が國炭礦業に於けるカルテル的統制) 結論

燃料・動力經濟讀本

小島 精 一著

昭和一二 菊判 二九二頁 千倉書房 一・六〇

石炭經濟 石油經濟 代用燃料經濟 電力經濟

世界大戰中の佛國工業(資源局研究)

資料第三輯

資源 局編

昭和九 菊判 四三八頁 資源局 非賣

戰前の佛國工業 佛全國に對する侵略地域の重要性・動員・其の直接の影響・相繼ぐ召集・死傷・勞働の拂底と其の對策 工業就業員數 其の増減及工業活動の變動 雇傭關係以外の工業情勢概観 概括・結論(各種工業につき記述)

國際危機と列國軍需産業の現況及び其の將來(東亞經濟資料第五輯)

東亞政治經濟調查所編

昭和九 菊判 一〇〇頁 東亞政治經濟調查所 非賣

世界列國の軍需工業 本邦軍需工業の全貌 投資から見た軍需工業 本邦官營軍事工業

帝國資源總覽

第一號 資源 局編

昭和一〇 四六倍判 五三〇頁 國勢社 二・七〇

國產要覽 日本商工會議所編 昭和一一 菊判 五七〇頁 日本商工會議所 一・五〇 紡織品 金屬材料及金屬製品 機械器具 化學工業製品 飲食品 其の他工業製品

我國の資源と國家總動員準備(銀行叢書)

第二八編ノ中

資源 局編

昭和一一 菊判 一二五頁 東京銀行集會所 非賣

資源問題の意義 人的資源 物的資源 其の他の資源 資源問題の重要性 資源の保育 我國の地位 我國の資源と其の保育 我資源保育策の基調 國家總動員準備 資源對策の現下經濟界に對する發現

躍進日本の姿と資源問題 東邦國策研究會編

昭和一二 菊判 八〇頁 東邦國策研究會 非賣

我が躍進の姿 我が戰時經濟と大陸資源 我が自足策を完遂すべし 參考 對支政策に關する所感

列國資源撮要

第三號 資源 局編

昭和一一 四六倍判 一〇九頁 內閣印刷局 三五

土地及人口 財政 金融及物價 國際貸借 交通 動力 生産 重要資源 需給關係 勞働爭議及失業

列強軍需資源論

資源整備調查局編

昭和一二 菊判 二四二頁 巖松堂 二・五〇

軍需資源研究の對象 七大列強經濟力の軍事的考察 重要食糧品及原料品に關する米國の一般情勢 軍需原料及食糧資源の檢討 鋼鐵合金屬の資源 其他の礦物資源 護謨・纖維及皮毛の資源 其他の原料資源 結論 附(列強産業力の自給性比較統計表)

非常時財政經濟に對する國民の協力に就て

(國民精神總動員資料第三輯)

大藏省・商工省編

昭和一二 菊判 四八頁 内閣・内務省・文部省 非賣
非常時財政經濟政策の遂行に何故國民の協力を必要とするか 非常時財政經濟政策と之に對する國民協力の分野 一般國民は如何なる事柄に付如何に協力を爲すべきか 一般國民の協力を求むるには如何なる方法に依るべきか 参考の一・一般國民は具體的に如何なる方法に依り消費節約すべきか 参考の二・家庭では斯うして非常時財政經濟に協力しませう

日本國民に懇ふ

吉野 信 次著

昭和一二 四六判 九四頁 生活社 三〇
近代戰爭の勝敗は何によつて決するか? 戰爭と生活不安の問題 國民の要るもの要らぬもの 輸入原料の使用を減らせ 物價が騰貴するのを防ぐには? 日本に新しい工業を興せ 日本經濟は將來躍進する

資源の愛護と非常時財政經濟への國民の協力

(時局資料)

内閣情報部編

昭和一二 菊判 一六頁 文部省 非賣
はしがき 資源の愛護 國際收支の適合 消費の節約 代用品の使用と廢品の蒐集利用 金の使用節約 勤勞報國と勞資協力 貯藏と國債の應募 結び

愛せよ資源 活かせよ廢品

昭和一二 菊判 二五頁 國民精神總動員中央聯盟 非賣
資源愛護と廢品の更生利用 廢物蒐集の経路 鉛屑 亜鉛屑 錫屑 屑 鐵 銅屑 アルミニウム屑 ガラス屑 古ゴム ウェスト 附(獨逸廢物蒐集運動)

世界各國の國產愛用運動

(國產愛用運動バ) (ソフレット第一)

日本商工會議所編
昭和八 四六判 二〇四頁 日本商工會議所 非賣
世界を擧げて國產品愛用時代 英吉利の國產愛用運動 獨逸の國產愛用運動 以下二九篇各國の國產愛用運動につき記述す

最近我國の國產愛用運動

(國產愛用運動バ) (ソフレット第二)

日本商工會議所編
昭和九 四六判 一二二頁 日本商工會議所 一三
我國の國產愛用運動の沿革 國產振興委員會の事業 内務省の國產品使用獎勵 産業合理局の國產愛用獎勵方策 日本商工會議所の國產愛用運動

國際貸借改善と國產愛用

(國產愛用運動バ) (ソフレット第三)

日本商工會議所編
軌條探傷機 ウルトラジンと陽晝感光紙 NE式寫眞電送 外二〇篇
科學日 發明界の驚異 寺島 柎 史著
日本人の獨創力 西洋の文明と日本の文明 以下三〇話

我國發明界の現勢

特許法施行五十年記念會編
昭和九 菊判 四七頁 特許法施行五十年記念會 非賣

序説 産業と發明 國防と發明 我國の特許法・實用新案法・意匠及商標法の沿革 我國に於ける特許・實用新案・意匠及商標の出願並特許及登録の件數 我國と各國との出願並特許及登録の件數の比較 實から見た特許發明の進歩 特許局から見た發明界の進歩 發明實施の重要性とその困難 發明の相互依存 發明獎勵施設

新興日本の工業と發明

大河内正敏著
昭和一二 四六判 二八九頁 日本青年館 九〇

科學と工業 技術家の頭腦 發明の工業化 熟練と機械 工業と他産業 農村の工業

日本發明發見物語

豊澤 豊 雄著
昭和一二 四六判 三一九頁 高山書院 一・五〇

日本人の科學的才能と發明概要 明治以前・科學の發達しなかつた理由 日本の電氣學 日本の飛行機 日本の天文學 日本の醫學史 以下一二篇

日本現代の發明家物語

寺島 柎 史著
昭和八 四六判 三一六頁 文教書院 一・五〇

非常時財政經濟に對する國民の協力に就て

(國民精神總動員資料第三輯)

大藏省・商工省編

昭和一二 菊判 四八頁 内閣・内務省・文部省 非賣
非常時財政經濟政策の遂行に何故國民の協力を必要とするか 非常時財政經濟政策と之に對する國民協力の分野 一般國民は如何なる事柄に付如何に協力を爲すべきか 一般國民の協力を求むるには如何なる方法に依るべきか 参考の一・一般國民は具體的に如何なる方法に依り消費節約すべきか 参考の二・家庭では斯うして非常時財政經濟に協力しませう

日本國民に懇ふ

吉野 信 次著

昭和一二 四六判 九四頁 生活社 三〇
近代戰爭の勝敗は何によつて決するか? 戰爭と生活不安の問題 國民の要るもの要らぬもの 輸入原料の使用を減らせ 物價が騰貴するのを防ぐには? 日本に新しい工業を興せ 日本經濟は將來躍進する

資源の愛護と非常時財政經濟への國民の協力

(時局資料)

内閣情報部編

昭和一二 菊判 一六頁 文部省 非賣
はしがき 資源の愛護 國際收支の適合 消費の節約 代用品の使用と廢品の蒐集利用 金の使用節約 勤勞報國と勞資協力 貯藏と國債の應募 結び

軌條探傷機 ウルトラジンと陽晝感光紙 NE式寫眞電送 外二〇篇

科學日 發明界の驚異

寺島 柎 史著
日本人の獨創力 西洋の文明と日本の文明 以下三〇話

我國發明界の現勢

特許法施行五十年記念會編
昭和九 菊判 四七頁 特許法施行五十年記念會 非賣

序説 産業と發明 國防と發明 我國の特許法・實用新案法・意匠及商標法の沿革 我國に於ける特許・實用新案・意匠及商標の出願並特許及登録の件數 我國と各國との出願並特許及登録の件數の比較 實から見た特許發明の進歩 特許局から見た發明界の進歩 發明實施の重要性とその困難 發明の相互依存 發明獎勵施設

新興日本の工業と發明

大河内正敏著
昭和一二 四六判 二八九頁 日本青年館 九〇

科學と工業 技術家の頭腦 發明の工業化 熟練と機械 工業と他産業 農村の工業

日本發明發見物語

豊澤 豊 雄著
昭和一二 四六判 三一九頁 高山書院 一・五〇

日本人の科學的才能と發明概要 明治以前・科學の發達しなかつた理由 日本の電氣學 日本の飛行機 日本の天文學 日本の醫學史 以下一二篇

日本現代の發明家物語

寺島 柎 史著
昭和八 四六判 三一六頁 文教書院 一・五〇

新興産業と國產愛用

(國產愛用運動バ) (ソフレット第四)

日本商工會議所編

昭和十 四六判 一三六頁 日本商工會議所 一五
國產振興と國產愛用 我國産業の發達と國產愛用運動 新興産業の展望 以下二〇篇人造絹糸外一九品の國產品の解説
國產品を以て外國品に代用し得る爲めの國產改善資料 日本商工會議所編
昭和九 菊判 二八九頁 日本商工會議所 非賣

國產愛用と代用品の獎勵

(國產愛用運動バ) (ソフレット第五)

日本商工會議所編

昭和一二 四六判 五〇頁 同所 一〇
國產愛用の意義 國產愛用の必要 我國産業の發達と國產愛用運動 最近の我國産業狀勢と國產愛用 輸入品の代用品の愛用獎勵

日本現代の發明家物語

寺島 柎 史著
昭和八 四六判 三一六頁 文教書院 一・五〇

國防及軍備

帝國の國防

秦 眞 次著
昭和七 四六判 一八七頁 先進社 一・〇〇
國防の意義 隣邦の情勢に就て 陸軍の使命 國防と滿蒙 速戰即決に就て 裝備特に新兵器に就て 航空問題特に民間航空國土防衛 陸軍豫算に就て 國家總動員 聯盟軍縮會議に就て 統帥權と國防とに就て 結論

國防大辭典

櫻井 忠 溫監修
昭和八 四六倍判 八六〇頁 中央産業調査會 普及版一〇・〇〇
詔勅 國防篇 戰爭篇 陸軍篇 海軍篇 航空篇

國防の根本自覺

多賀 宗 之著
昭和九 四六判 三三〇頁 朝光會 一・〇〇
國防概念 國防認識 銃後の國防 國防と對内關係 國防と對外關係 國防の特性 我國軍備の概要及び列強軍備との比較 裝備 軍費豫算に付て 結論

國防の本義と其強化の提唱

陸軍省 新聞班編
昭和一〇 四六判 四六頁 陸軍省新聞班 非賣

軍 結論

國防學概論

佐藤 六 平著
昭和一一 菊判 三三六頁 南光社 三・五〇
國防篇(國防の本質 軍備 軍紀並人和 列國海軍政策並造艦政策 國防資源統制 重要資源 國防費 海軍の自由問題 海軍艦船の現状と無條約 航空法通論 戰爭論) 軍縮篇(軍縮の原則 既成軍縮條約の批判 軍縮方式 今次軍縮會議結論) 委任統治南洋群島篇(聯盟脫退と正義 非常時の認識 沿革 南洋群島は斯る功績に報いられた 委任統治の経緯 日本と米國 太平洋上の權力の爭奪 太平洋は米國の獨占に非ず 米國の極東政策 國防上より觀たる南洋群島 主權 大國の標度 經濟 封鎖と南洋群島 米國の對日經濟封鎖論 地誌的觀察 人口 氣象 港灣土木資源關係 交通通信 財政 結論)

國防の立場から

池崎 忠 孝著
昭和一一 菊判 二五八頁 昭森社 二・〇〇
國防とは何か 日本海軍の三原則 蘇國の戰意 極東の英國海軍 日蘇戰爭の戰略 英米協同作戰 戰時の商船 國防の立場から 戰爭の天才

國防篇(兒童百科大)

小原 國 芳編
昭和一二 四六倍判 六〇三頁 兒童百科大辭典刊行所 六・〇〇
總論(國防の本義 統帥權 詔勅及び御製・御歌 兵役 皇軍の組織 位階・服裝・勳等 在郷軍人 靖國神社) 陸軍(編制 兵科 古代の兵 國防及軍備)

國防觀念の再檢討 國防力構成の要素 現下の國際情勢と我が國防 國防策強化の提唱 國民の覺悟

國防上よ 日滿支の關係

陸軍省 新聞班編
昭和一一 四六判 五〇頁 陸軍省新聞班 非賣
近代戰の形體と國防 過去に於ける列強の極東政策 東亞に於ける列強の現勢 東亞に於ける國際經濟の趨向 日本と支那との關係 日滿支三國の進むべき道

最近軍事問題論攷

池崎 忠 孝著
昭和一一 菊判 四二六頁 大村書店 二・七〇
序に代へて日本の現状を論ず 極東に於ける英國海軍とその戰略的地位 日本海々戰とジャットランド海戰 蘇滿國境の戰略的形勢 日本陸軍の眞價 米國海軍の日本進攻作戰 三群島の戰略的價値と其の問題 エチオピアの戰略的地位 伊軍のエチオピア攻略作戰に就て 太平洋における戰略的形勢の變化 日米海軍の對抗と太平洋の危機 帝國軍人に寄する言葉 軍事問題小論 歐洲大戰回顧録

國 防 論

宇山熊太郎著
昭和一一 四六判 三二〇頁 大日本圖書株式會社 一・〇〇
緒論 近代の戰爭觀 近代の國防觀 近代の陸軍 近代の海軍 空の國防 列強の航空界と我航空 軍縮問題 思想國防 國家總動員 國防と女性 我國防上より見たる隣邦の陸上軍備 我國防上より見たる米國海

器 携帶兵器・機關銃 火砲 彈丸・火藥 光學兵器・通信兵器 化學兵器 戰車 軍用車輛 軍用動物 障礙物・偽裝 築城 軍用機材 陸上戰團) 海軍(編制 艦船の種類・性能 軍艦の構造・建造 推進機關 砲・魚雷 魚雷 機雷・爆雷 毒瓦斯・烟幕 電氣・光學・通信・航海兵器 海上戰團) 航空(航空機の概要 軍用機の種類及性能 飛行 航空用兵器 空中戰團 爆撃と防空) 國防政策(列國の軍備 國防と外交 軍縮會議 國防と經濟・産業 海洋發展 皇軍の教育)

現代の戰略戰術

佐藤 清 勝著
昭和一一 菊判 一九七頁 八卷印刷出版社 二・〇〇
緒論 現代戰と戰略(兵力及統帥 集中及集中戰 運動戰 陣地戰 戰略上利用すべき有形物 戰略上の時間及場所) 現代戰と戰術(現代戰に於ける戰團の特性 戰術に影響を及ぼせる有形物 各兵種編制の變化 各兵種戰團法の傾向 陣地戰の攻防 現代戰に於ける戰術の要義) 結論

近代戰と國防

原 嘉 章著
昭和一二 四六判 二九四頁 第二國民會出版部 一・三〇
戰爭とは 國家總動員 思想宣傳戰 機械戰 化學戰 未來戰の兵器

國民兵器大觀 附・其の戰法

長谷川 正道著
昭和九 四六倍判 八〇六頁 寶文館 六・五〇
總論(緒言 兵器通論 戰團通論) 陸軍篇(陸軍の戰法 築城 陸軍兵



國防及軍備

器の總説 携帶兵器と機關銃 陸軍火砲 軍用火藥 彈藥と火具 射撃と彈丸效力 軍用器材 光學兵器と光電池 化學兵器 軍用車輛と橋及び自動車 戰車と機械化兵團 軍用の動物 將來戰の新兵器) 航空篇 (航空兵器通論 航空器材 戰術的用途 海軍用航空機 航空機と國防 航空機に對する結論) 海軍篇 (海軍汎論 海軍兵器 帝國海軍の編組 海戰の方式 海戰要談) 國防篇 (國防通論 兵器と國防 軍需工業 軍需資源 地金規格と検査並に保存格納 國防篇餘録)

化學兵器の理論と實際

中村隆 壽著
昭和一一 菊判 二四九頁 陸軍科學研究所高等官集會所 二・〇〇
總論 各論(化學兵器 煙 化學兵器防護法 化學救急法)

兵器讀本

青木 保著

昭和一二 菊判 四六〇頁 日本評論社 一・八〇
兵器 防禦兵器の今昔 攻撃兵器の今昔 白兵 大力兵器 火藥 筒・砲身と銃身 砲架 彈道 彈藥 陸戰砲 自動火藥 携帶火兵 火藥の要らない砲 車輛兵器 近接戰兵器 軍艦とその攻防兵器 航空機とその攻防兵器 化學兵器 ロケット噴進彈 光學兵器 音響兵器 聯合(偽裝・迷彩とその看破) 通信兵器

兵器考

有坂 鋁藏著

昭和一二 菊判 二二六頁 雄山閣 三・二〇
航空機 水雷・地雷 機關銃砲 現代の防禦兵器及偽裝法 化學兵器

戰車 軍用動物

五二

世界之防備と近代科學

仲摩 照久編
昭和一二 四六倍判 五三二頁 工業協會 非賣
兵器編(青木保) 緒論 火藥 彈道 火砲 砲架 各種砲の性能 砲の彈藥 砲の構造 自働する火兵 携帶火兵 火藥を用ひない砲と空雷 火兵の沿革 近接戰に用ひる武器 航空機の機裝及び射撃用具 戰車と裝甲自動車 魚雷 機雷 特雷 對潜水艦武器 水中爆發 化學兵器 光學兵器 照明裝置 隱蔽法 戰爭に於ける動物の利用) 船舶篇(山本武藏) 概説 船體の構造 船舶に關する理論的の方面 設計及建造 推進機關 商船 特殊船 軍艦及特殊船

化學兵器

山田 櫻著

昭和一一 菊判 一五四頁 共立社 一・二〇
通論 化學兵器 ガス防護材 發煙劑 燒夷劑及火焰劑

列強は如何にして軍備を整へつゝあるか(時局資料)

内閣情報部編
昭和一二 菊判 二五頁 文部省 非賣
英國の軍備強化 獨國の軍備強化 佛國の軍備強化 伊國の軍備強化 米國の軍備強化 ヲ聯邦の軍備強化 支那の軍備強化

平易に説いた陸海軍の知識

國防科學研究會編

昭和九 四六判 一七六頁 二松堂書店 一・二〇
陸軍の卷(皇國の陸軍 陸軍の火砲 陸軍の新兵器 空の戦ひ 世界の陸軍 我が陸軍の組織) 海軍の卷(皇國の海軍 我が海軍航空隊 海軍の兵器 世界列強の海軍 帝國海軍の組織)

陸海軍軍事年鑑

軍人會館出版部編

昭和一一 四六判 七六八頁 軍人會館出版部 八〇
宮廷 憲法 皇室典範 公式令 爵位・勳功 土地氣象 帝國軍制の沿革 陸軍 近代陸軍裝備の趨勢 軍關係國家的施設 海軍 國家戰時の施設 兵役關係事項 軍事法令 過去諸戰役諸統計 公私軍事關係諸團體 航空 外交 財政 出版 滿洲國事情

話題の陸海軍史

松下芳 男著

昭和一二 四六判 三三八頁 忠勇社 一・五〇
話題の陸軍史(陸軍史の概要 話題の陸軍史 御親兵の話 竹橋騷動の話 教導團の話 屯田兵の話 日清役前の軍部 日露戰役參戰者の年齢 巷間の陸軍秘話 陸軍事物起源) 話題の海軍史(海軍史の概要 話題の海軍史 製艦事業の話 海軍大演習の話 巷間の海軍秘話 海軍事物起源) 話題の軍事史(軍事史雜話 元帥の話 徵兵免れの話 明治軍歌の話 巷間の軍事秘話 軍事事物起源)

國防及軍備

日本學講座第三卷軍事

伊豆公夫 著

昭和一二 菊判 三九九頁 三笠書房 一・八〇
前篇(軍事問題發達史の意義と方法 原始・古代社會の軍事問題 王朝的體制下の軍事問題 武士政權成立期の軍事問題 戰國・織豊時代の軍事問題 徳川時代の軍事問題(幕末・維新の軍事問題) 後篇(陸軍史(陸軍の創設 徵兵令の制定 軍政機關の發達 軍令機關の發達 教育機關の發達 軍備力の發達 兵器の發達 戰術の變遷) 海軍史(海軍の創設 軍政機關の發達 軍令機關の發達 教育機關の發達 軍備力の發達 艦力の發達 兵器の發達 海軍軍備の協定) 空軍史(陸軍の航空隊 海軍の航空隊) 戰爭及事變史(明治の戰爭及事變 大正の戰爭及事變 昭和の戰爭及事變) 軍政史(政變と軍制軍事費の趨勢)

現代の陸軍

伊藤政之助著

昭和一一 四六判 二七七頁 大日本圖書株式會社 一・〇〇
序講 陸軍の使命 日本と露國 日本と支那 滿洲と我が陸軍 帝國陸軍 列國陸軍 陸軍戰術 終講 附(列國陸軍關係事項概覽 帝國陸軍組織並參考事項概覽)

新興日本の國防

陸軍篇 (新興日本叢書第五卷)

中柴末 純著

五三

73

311

昭和一一 四六判 二五七頁 日本青年館・九〇
基礎的事項に就いて(はしがき 我が國防の眞意義 皇國の國體
天皇・御稜威・神武 天皇大道の世界的光被 皇軍建軍の本旨と外國軍
隊との相違 統帥權の意義 軍人精神) 實際的事項に就いて(世界の現
狀特に東亞の近狀に就いて 近代國防の諸相 軍人の要素 人・兵器・
新戰術 戰爭の意義 帝國陸軍及び列國軍備の比較 軍事費に關する諸
問題 新興日本の眞使命 青年の覺悟)

帝國及列國の陸軍

陸軍 省編
昭和一二 四六判 一四〇頁 陸軍省 非賣
緒言 陸軍軍備の趨勢 帝國陸軍概觀 列國陸軍概觀

現代の海軍

昭和一一 四六判 三七〇頁 大日本圖書株式會社 一・〇〇
情勢篇 現代海軍素質篇 現代海軍消長篇 列國軍備篇 現代海軍戰術
篇

新興日本の國防 海軍篇

(新興日本卷) 書第六卷
有馬 寬著
昭和一一 四六判 二七三頁 日本青年館・九〇
日本の海上發展(神代に於ける海事 海による神武天皇の御東遷
崇神天皇水軍を整備し給ふ 悠久千二百有餘年前の大國難 第二次國難

日本海軍艦隊論

阿部 誠 雄著
昭和九 四六判 四七〇頁 政教社 一・八〇
緒論 日本艦隊の推移 艦隊兵力としての軍艦 艦隊の編成 艦隊の兵
力量

潜水艦の知識

宗藤 良 而著
昭和一一 四六判 一四三頁 海文堂 一・〇〇
潜水艦發達の沿革 潜水艦の特性 潜水艦の構造 潜水艦の型 潜水艦
の要素 航海 潜水艦の攻撃

防空空中戰時代

野口 昂著
昭和八 四六判 二四四頁 河出書房・八〇
掌上日本の危機 空襲下の戰慄 爆撃目標とスパイ 歐洲大戰及び支那
事變に於ける空戰 飛行機・飛行船・航空母艦 米か?赤露か? 如何
にして防空するか? 都市防空の常識 歐米列強の航空政策並防空概觀
防空無くんば國防なし

われ等の空軍

大場 彌 平著
昭和一二 菊判 三二二頁 大日本雄辯會講談社 一・五〇
われ大空(空軍は昭和皇軍の華 わが空軍の誕生) われ等の空軍(戰
闘機 爆撃機 偵察機 襲撃機 飛行機の武装 獨立空軍の作戦 海軍
國防及軍備

海軍讀本

阿部 信 夫著
昭和一二 菊判 四〇八頁 日本評論社 一・五〇
大日本帝國海軍論 太平洋と帝國海軍 現代の軍艦 大空の護り 海軍
航空 海軍の兵器 列國海軍の情勢 帝國海軍の組織 海軍豫算 海防
の第二線 海軍豫備勢力

海軍要覽

昭和十二年版 海軍有終會編
昭和一二 菊判 六七四頁 海軍有終會 三・五〇
海軍發展と我海軍の使命 戰備 海軍艦船 海軍兵器と船用機關 航空
水路測量並に同國誌 作戰と將帥 列國海軍豫備勢力 海軍々縮問題の
經緯 國防資源と總動員準備

軍艦讀本

福永 恭 助著
昭和八 菊判 二五一頁 一元社 一・〇〇
主力艦 排水量の解剖 マストと櫓 日本巡洋艦 機雷と魚雷 水雷艇
と驅逐艦 今日の水雷艦 航空母艦 海軍用航空機 艦の脚 帝國海軍
艦艇一覽表

空中戰

大場 彌 平著
昭和一二 四六判 三七六頁 太陽閣 一・五〇
空中戰と支那事變 空中戰物語 空の赤鷲 空中戰略原則批判 帝國空
中の偉容 列強空中の現勢 支那空軍とその實勢力 列強軍用機の展望
極東に於ける列國の空中角逐 近代戰における空軍の役割 陸軍戰闘機
の裝備と武装 近代爆撃機の有つ性能 空襲敵國屈服論 飛行機ちよん
齋時代 ちよん齋飛行家列傳 ちよん齋機の珍藝

我等の大陸空軍

大日本國防會編
昭和八 四六倍判 一二八頁 大陸空軍刊行會 二・〇〇
大陸軍(國防の話 わが陸軍の生ひ立ち 師團と各兵隊 陸軍の兵器
列國陸軍の現狀 わが陸軍の成り立ち わが海外軍 一般軍事) 大空
軍(わが陸海軍の空軍 陸軍機の話 海軍機の話 空襲 防空と日本
防空の方法 各國空軍の勢力 愛國機の話 少年航空兵の話 飛行機の
記録の話)

空の王者

武富 邦 茂著
昭和一一 四六判 三七七頁 實業之日本社 一・二〇
五五

國防及軍備

空の王者 空中戦の花形 爆撃物語 航空隊訪問 飛行隊訪問 飛行機問答戦 航空少年座談會 難關パス 入隊 故郷の山々 意氣の戦ひ 幕營生活 同乗飛行 初休暇 辻堂演習 彼等は集立つ 海國の若人に附(海軍志願兵徵募検査試験問題集)

この海空軍

古澤磯次郎著 西寬治著

昭和一二 四六判 二六五頁 今日の問題社 一・三〇 わが海空軍の新戦略 帝國海空軍の威容 支那空軍の全貌 支那空軍根據地の殲滅戦 上海空中戦 海陸共同作戦と沿岸封鎖戦 全支那殲滅の空爆戦

防空の科學

保科貞次著

昭和一〇 菊判 三〇〇頁 章華社 一・八〇 空の脅威 空襲と國民の心理 空襲と民心の統制 爆撃園内の日本 空襲の特性と國民の用意 現代の防空兵器 投下爆弾の驚異 斯くして空襲に備へよ 航空機および空中武力の今昔 空襲上より觀たる日本の地勢 空襲の時機と方法 空中の亂舞 敵機もし我國を襲はば 防空の國民化 燈火管制の本質を正視せよ 燈火の管制區分 燈火の管制要領 空襲によつて起る火災の悩み 焼夷爆弾の特性と消火劑 空襲によつて續發する猛火をどうして防ぐか 空襲下の木造都市 化學兵器の沿革 毒瓦斯の特性と特徴 瓦斯の毒禍をどうして防ぐか 毒瓦斯の避難所 誰しも心得べき防毒の常識 深まりゆく列國の化學戰準備 明日の化學戰に備へよ 避難の意義 防空上避難所の設備 避難所の管理 空襲と

小學兒童の避難 空襲と患者の救護 防空と河川道路鐵道 防空と水陸の交通整理 防空と地下鐵の價値 防空と偽裝遮蔽 空襲と港灣 都市と防空施設 歐米各國の軍事及び民間航空の情勢 我が國の民間航空

空襲に對する國土の防衛

大谷清 鷹著

昭和一一 菊判 二六三頁 國土防空協會 二・五〇 緒言 情報勤務 空中兵力を以てする事前の防衛 地上にする防空諸施設 消極的の防空手段 防空の編成組織と其の機能 結論

將來戰に於ける兵團の防空

大谷清 鷹著

昭和一一 菊判 一三八頁 軍事界社 一・五〇 總說 兵團に有する高射部隊の兵力(各軍團に於ける趨勢 高空よりする敵機の對地上部隊攻撃は怖るべきか否か 兵團の防空 高射砲の地上戰闘流用 兵團の防空裝備) 防空の爲地上戰闘用火砲の流用(防空の爲地上戰闘用火砲の流用に關する一二の論說 戰術的考察 技術的考察 教育上の考察 編制) 結論

空中爆撃に對する國民の準備

宇山熊太郎著

昭和一二 菊判 二一八頁 亞細亞研究會 一・五〇 防空の急務 防空一般の要領 防空監視 燈火管制 消防 防毒 避難と救護 警備と交通整理 偽裝と遮蔽 其他の業務 防護團體 結論

空襲 片岡稔著

害 軍事目標主義の防守地域に關する例外 空襲に對して特別の保護を與へらるべき建造物 空襲に於ける豫告の問題 航空機に依る海上通商の妨害と是に伴ふ商船の爆撃 附録・中之領域と交戰國軍用航空機

昭和一二 四六判 三二〇頁 ダイヤモンド社 一・三〇

戰爭は手段を選ばない 防空知識第一步 焼夷彈 空襲 攻めるもの守るもの 明日の空襲機關 地上防空か空中防空か 大空を守る 防空機關の長短 高射砲に對する疑惑 大空を撃つ 大空に聽く 大空を照らす 大空をさへぎる 未來の防空機關 防護團第一課 防護團第二課 防護團第三課

防空讀本

大場彌平著

昭和一二 菊判 二五〇頁 偕成社 一・三〇 次ぎの戰爭と空襲 現代諸列強の空軍 空襲機と爆撃力 空襲機の行動防空

敵機來らば

高橋常吉著

昭和一二 四六判 三二二頁 新潮社 一・二〇 列強空軍の脅威下にある日本 軍用機種と空中作戦 空襲の絶對的脅威 敵機近き日本 空襲に魅せられた列強の軍備強化 列強の防空方針と工作

空襲と國際法

田岡良一著

昭和一二 菊判 三八二頁 巖松堂 三・七〇 空襲の歴史及び空襲に關する國際法の發達史 空襲法研究の基礎としての過去の戰爭法の知識 空襲法の諸學說の紹介と批判 軍事目標主義の意義及び軍事目標の範圍 軍事目標の爆撃に當つて一般人民に及ぼす損害 國防及軍備

733 311

國民精神

國民精神總動員について (國民精神總動員資料第一輯)

内閣・内務省・文部省編

昭和一二 菊判 二五頁 内閣・内務省・文部省 非賣

内閣告諭 内閣訓令 内閣總理大臣演説 内務大臣演説 文部大臣演説

日本精神の發揚 八紘一字の精神 (國民精神總動員資料第四輯)

内閣・内務省・文部省編

昭和一二 菊判 二三頁 内閣・内務省・文部省 非賣

國家・民族の興廢 國民精神の發揚 支那事變の意義 皇國の使命と我等の覺悟 社會風潮の一新 むすび

國體精神の涵養

互理章三郎著

昭和七 菊判 二七〇頁 中文館 二・五〇

序説 國體精神涵養の重要性 國家國體觀の確立 國體精神の涵養と國史教育 國體精神の涵養に關し國史教育上注意すべき諸要項 國體精神の涵養と教育體系 附(國體精神の涵養と祝祭節日 國體精神涵養の方案)

日本國體

西晋一郎著

昭和一〇 四六判 八八頁 日本文化協會 非賣

國體觀念の由來 民族の性情の歴史 祭政教一 國家的統一の具現につ

我が國體と日本精神

河野省三著

昭和一〇 四六判 二四二頁 青年教育普及會 一・三〇

國體精神の高調と日本精神の自覺 我が國體と日本精神との本質的關係 國體學としての國學に就いて 日本民族の傳統的信念 我が國體の神髓 日本民族の傳統的情操と我が國體觀念の基礎 皇國國體の正しい觀方 日本精神の正しい觀方

國家統一思想としての神代觀念 菊谷榮太郎著

昭和一一 菊判 二七二頁 建設社 二・五〇

序説 國民文化の結晶・神代觀念の醗酵 國家統治の思想・神代觀念の成立 民族統一の思想・神代觀念の發達 結語

國體の本義

山田孝雄著

昭和一一 菊判 一七一頁 寶文館 六〇

國體といふ語の意義 國體といふ語の示す觀念 國體は國家の性格の表現 國體の根柢としての國民性 國體の本質 國體に關する史實の考察 結論 附(國體の淵源を教ふる物語)

皇國體の大義

渡邊八郎著

昭和八 菊判 二二〇頁 春陽堂 一・八〇

建國精神の反省 國體の要綱 憲法の概説 國史の概観

國體觀念の新研究

池岡直孝著

昭和八 四六判 二七五頁 同文館 一・五〇

國體觀念研究の重要性 國體研究の諸態度 國體の意義 國體觀念の內容 神代史と國體觀念 國體觀念の變遷 國體に反する思想 國體を擁護する思想 日本精神と國體觀念 内外國策原理としての國體觀念

神ながらの道

寛克彦著

昭和九 菊判 六八〇頁 皇學會發行・岩波書店頒布 四・五〇

神典 緒言 別天神並に神世七代の神々 神代本紀 彌榮 弓の神樂歌に就きて 以歌護世

我が國體及び國民性について 西晋一郎著

昭和九 四六判 七〇頁 日本文化協會 一・五

天然と人為 歴史の性質 我が國體 我が國民性 結語

國體本義の明徴

池岡直孝著

昭和一〇 四六判 二四八頁 章華社 一・五〇

緒論 學問研究の態度方法 日本國家の基礎概念 憲法論批判 日本國家への自覺(國體本義の明徴 日本精神の作興 日本國家の理想)

國民思想と國體本義

大杉謹一著

昭和一一 四六判 二六六頁 中和書院 二・〇〇

國民思想の趨向 國體の本義 外來思想と國體の自覺 明治維新と國體の自覺 維新の國學者とその思想

國體の本義

文部省編

昭和一二 菊判 一五六頁 内閣印刷局 三・五

緒言 大日本國體(肇國 聖德 臣節 和と「まこと」) 國史に於ける國體の顯現(國史を一貫する精神 國土と國民生活 國民性 祭祀と道徳 國民文化 政治經濟軍事) 結語

日本國體論

伊藤千眞三編

昭和一二 菊判 三〇八頁 進教社 二・〇〇

天壤無窮の神勅と我が國體の精華(三上參次) 我が國に於ける神社の發達史概観(田中義能) 我が國體の本義(伊藤千眞三) 本居宣長の國體論(安瀨寛彦) 伴信友の國體論(橋鹿春) 會澤正志の國體論(田坂正) 吉田松陰の國體論(廣瀨豊) 明治維新に於ける國體の明徴(大杉謹一)

日本國體新論

清原貞雄著

昭和一二 菊判 三三三頁 育芳社 二・五〇

國體とは何ぞや 國家 國體の本質 國體の淵源 國體の顯現 我が國體と憲法 國體に對する國民の自覺 我が國家の發展と國體 國體と新領土 國體觀念の涵養と其の教育

733

311

祭政一致と臣民道

大倉精神文化研究所編

昭和一二 菊判 二九二頁 大倉精神文化研究所 一・五〇
原理(序論 神國の自覺と祭政一致 祭政一致の原理 臣民道 立體國家) 史的研究(國史を貫く祭政一致 祭政一致論の史的展開 外國に於ける宗教と政治との關係)

神

典

大倉精神文化研究所編

昭和一一 三五判 二一五六頁 大倉精神文化研究所 四・五〇
古事記(田中義能) 日本書紀・古語拾遺・令義解・律・新撰姓氏錄・風土記(植木直一郎) 日本書紀・萬葉集(河野省三) 延喜式(宮地直一) 宣命・壽詞・祝詞(星野輝興)

日本思想史概説

田中義能著

昭和七 菊判 二二四頁 日本學術研究會 二・五〇
緒論 上古の思想 上古の思想(續) 中古の思想 近古の思想 近世の思想

國民理想の確立

吉田熊次著

昭和七 四六判 五〇頁 青年教育普及會 四・五
緒言 歐米各國の教育制度と國民理想 外國文化の盲目的模倣の弊害 國民理想としての國體觀念 教育勅語による國體の意義 國體に對する疑惑の批判 結語

國民精神の淵源

村岡典嗣著

昭和八 四六判 五八頁 青年教育普及會 三・〇
緒言 國民精神の淵源とその神代傳説 神代傳説に於ける諸觀念と思想的傾向 神代傳説構成の理想 結語

日本精神の闡明

池岡直孝著

昭和八 四六判 一六八頁 章華社 一・二〇
日本精神の復興 日本精神とは何ぞや 國體と日本精神 文化と日本精神 國家改新と日本精神 政治と日本精神 經濟と日本精神 教育と日本精神 思想問題と日本精神 世界と日本精神 結語

日本精神に關する一考察

紀平正美著

昭和八 菊判 七二頁 章華社 六・〇
日本の現在には危機を孕んでゐるか 何故彼等は共產黨へはいつたか 〃に家族主義の眞髓がある エディッパス關係について 母親に對する東西の觀念 和平を愛好する日本國民 明確なる印象 女性への新鮮な印象が人間を作る 私の體驗する母の印象二つ 日本の藝術は單獨な一人から生れたのではない 「やりとり」と「とりやり」の別 古代思想への復歸 天皇の御祭事 眞の日本精神とは

日本精神概説

清原貞雄著

昭和八 四六判 三六一頁 東洋圖書株式會社 二・五〇
緒論 日本精神とは何ぞや 日本精神と我が國家の隆替 推古朝に於ける

る國威の發揚と日本精神 大化改新 外來文化と日本精神 武士道の精髓 南北朝時代に於ける日本精神の顯現 明治維新の大業に於ける日本精神の發揚 明治以後の國力發展の根本力 結語

國史と日本精神の顯現

清原貞雄著

昭和九 菊判 六一二頁 藤井書店 五・〇〇
緒論 國民の國家我の自覺 聖德太子に依つて顯現せられたる日本精神 大化改新と我が國體 外來文化の日本化 奈良時代に於ける日本精神の代表的人物 平安朝時代 鎌倉時代 南北朝時代に現はれた三大事實 戰國の末に於ける勤王思想の發揚 近世期の日本精神 結論に代へて

日本精神説の批判

荻原擴著

昭和九 四六判 四〇四頁 明治圖書株式會社 二・六〇
日本精神説の批判 國民道徳か皇道か 國家目的の倫理的考察 教育者に賜はりたる勅語に就いて 高等小學修身書を評す 現代の道徳問題 家族の機能と倫理 白川村大家族の制度及び道徳 王道思想の倫理的考察 滿洲國の王道 獨逸に於ける國民精神養成の問題 教育的國策の樹立と徹底 京大事件の倫理的管見 國體倫理學序説

日本民族理想

西村眞次著

昭和九 菊判 二五三頁 東京堂 一・八〇
序論 日本文化の基礎 日本文明の因子 古代日本人の性格 基礎的共通規制 日本の民族性と其規定力 日本文化と民族性との交聯 日本民族の生活理想 民族理想の傳承 結語

日本精神の本質

井上哲次郎著

昭和九 四六判 四一三頁 大倉廣文堂 一・八〇
日本精神と「神ながらの道」 我が日本國民精神の特色 日本精神文化

日本精神の研究

河野省三著

昭和九 菊判 四〇四頁 大岡山書店 三・八〇
古典と日本精神 思想史上の鎌倉時代 貞永式目の首條 倭論語に就て 山鹿素行と武士道と日本 松宮觀山と高弟法忍 國學興起の由来を論ず 井澤蟠龍と本居宣長 近世の偉人平田篤胤 橋守部の待問雜記 明治十五年の日本 國民精神の基礎 模倣より創造へ 明治維新以降に於ける日本精神自覺の過程 我が國體と神社 國民精神の陶冶 現代社會と日本精神 附(鳥居を背景にして やまところ 日本國民の歌)

日本民族の信念

河野省三著

昭和九 四六判 七四頁 青年教育普及會 三・〇
國民精神作興の重點 日本民族の信念と言葉 日本精神の意義 日本民族の傳統的信念 日本民族の傳統的情操 日本民族性の特色

日本精神の實現

池岡直孝著

昭和一〇 菊判 三三一頁 章華社 一・八〇
序論(日本精神時代の意義 日本精神研究の現段階 日本精神研究の態度 日本精神研究の方法) 本質論(日本精神の定義 日本精神の特質 日本精神の哲學的研究 日本精神の歴史的研究) 實現論(過去に於ける

733
311

日本精神の發現 昭和維新 政治の革新 經濟の改善 思想の是正 教育の刷新 世界への貢獻) 結語

日本精神讀本

緒言 外來思想とその克服 神説の解説 日本精神(日本精神の概念 日本精神活動の事跡 日本精神發達の原因) 結語

皇國日本

互理章三郎著 昭和一〇 四六判 二二六頁 目黒書店 一・六〇

序説 皇室を本源とする一元の民族・一元の國家 皇國日本として國運の發展と其の組織的擴大 皇室を絶對の中心とする國家の維新的創造 皇國日本 神國日本・祖國日本 皇國日本の特殊性 我が國體の倫理的意義

皇國の行くべき道

皇國現下の諸問題と將來行くべき道 荻原 擴著 昭和一〇 四六判 一九〇頁 日黒書店 一・五〇

題目に就いて(皇國現下の諸問題 將來行くべき道) 現實の皇國現下の諸問題(國內問題 人口と領土との問題 國際問題) 皇國の道(皇道の文字と意義 日本國の信念 皇道と外國文化 皇道の價值) 皇道の實現(本邦の國是 外國文物の批判的取捨 制度及び生活の皇道化 大義の世界的顯揚) 皇道と教育(教育改善の諸問題 教育者の職責 職分に格循) 附(皇國の道について)

日本精神の淵源とその顯彰

佐瀬 恒著

昭和一〇 菊判 四四〇頁 大日本國民道德研究會 二・八〇 緒論 日本民族特有の性情と日本精神 敬神崇祖と祭政一致 我が國武士道精神と日本精神 我が國建國の由來と國體觀念の發達 佛教の傳來と日本精神 儒教傳來と日本精神 國學研究の隆昌と尊王心の勃興 明治維新以降に於ける日本精神の顯彰 我が國體闡明の必要と天皇機關説に就いて

國史と日本精神

植木直一郎著

昭和一一 四六判 二〇五頁 青年教育普及會 一・二〇 國史の特殊性 國史研究と古典研究 古典の性質 國史の源頭 天祖天照大御神 建國肇造 天孫の降臨 建國の神勅 主權に對する國民の思想信仰 天業の恢弘 天皇に對する神聖觀 「すめらみこと」 敬避の禮制 天皇に對する國民の自覺 「やつこ」 「まへつぎみ」と「みこともち」 「大日本は神國なり」 我が國體の特殊無比なる理由 地理的位置と自然的環境 一國一民族の國 天照大御神の廣大無邊なる御威徳 國家統治に關する天祖の御遺訓 細戈千足國 齋庭の稻穂 大御寶 伴信友・梅田雲濱の歌 七生報國 「まつりごと」の本義 「奉行」と「御用」 神君・民の三「み」一體 人間生活と國家 永遠に榮ゆる國 學問の道は本を立つるより大なるは莫し

日本精神と其の顯現

清原 貞 雄著

昭和一一 四六判 九三頁 青年教育普及會 三・〇

日本精神運動勃興の意義 日本精神の理論的考察 儒教の傳來と日本精神 佛教の傳來と日本精神

皇室と日本精神

辻 善之助著

昭和一一 四六判 三三〇頁 大日本圖書株式會社 一・〇〇 日本文化の發展とその中心 聖德錄 光格天皇の御生母に就て 國民文化の大指導者明治天皇 軍人に賜はりたる勅諭の歴史的意義 國史に現れたる日本精神

日本精神生成發達史

河野省 三著

昭和一一 菊判 四〇六頁 大岡山書店 二・八〇 日本精神の特色 日本民族性と國體 中世に於ける武士道の發達 近世に於ける我が國家觀念の發達 明治時代國民思想の研究

我等の日本精神

徳富猪一郎著

昭和一一 四六判 三五六頁 民友社 一・六〇 我等の日本精神 國史より觀たる我が國體 國防の精神と精神的國防 世界に於ける日本帝國の使命 和を以て貴しと爲す 立國の三大要素 日本は世界に向つて何を寄與するか 日本歴史上に於ける女性の地位 世界の模範としての大日本帝國 大日本帝國の國運と日本女性の責任 世界の歴史より觀たる日本の世界に與へたる影響 地方的個性の存養

日本精神論

伊藤千眞 三編

昭和一一 菊判 三六四頁 進教社 二・〇〇

日本の使命と國民の自覺 清原 貞 雄著 昭和一二 四六判 二六〇頁 目黒書店 二・〇〇 愛國論 日本の使命 我が國民性より見たる思想問題 日本思想の發達 國民的自覺心の發達 國力の根源 日本國民の精神 國民精神と國運の消長

日本倫理と日本精神

深作 安 文著

昭和一二 菊判 三八六頁 目黒書店 三・五〇 日本倫理 日本精神 水戸學 宗教 思想問題 教育

733

311

立國精神と我が國の文化 清原貞雄著

昭和一二 四六判 二六〇頁 目黒書店 二・〇〇
おのづからなる我が國家と皇位の絶對性 神武天皇建國の大業と現下の日本 建武中興と日本精神 建武中興と北畠親房父子 加茂真淵の學問及び思想 日本精神から見た明治以後の思想界 明治文化史の鳥瞰 宗教としての神道に就て 神道と日本文化 自由と統制及平等 祭祀と道徳

日本精神の研究

安岡正篤著

昭和一二 菊判 三一五頁 玄黄社 二・〇〇
日本民族の自覺 自覺の世界に於ける根本的態度 永遠の今を愛する心 國體の信仰 人格の涵養 國土の國 信仰と殉忠 日本精神より觀たる武 學道と義憤 政道の要諦 劍道の精神 劍道の心法 日本の婦道

日本精神と儒教

諸橋轍次著

昭和九 四六判 二三五頁 帝國漢字普及會 二・〇〇
兩者の關係(日本精神の解剖 儒教の長短と其の日本化) 儒教成立の経緯(周末の實情 九流の主張) 儒教の領域 儒の發生發達 儒教と孔子) 儒教の修養(哲學 涵養論) 正名の原理(名は實を表はす 名實論) 儒教の正名(春秋學 結語)

日本精神と日本佛教

矢吹慶輝著

昭和九 四六判 二七四頁 佛教聯合會 一・五〇

前編(内外の道向と日本の自省 日本の特殊性と海外宗教異變 反佛教思想とその由来 新日本の求心思想運動 日本の國民性と日本精神) 後編(佛教文化の回顧 聖德太子の偉業 皇室と佛教 鎮護國家と日本佛教 國史上の人物と日本佛教 日本地理と佛教 日本の文藝と佛教 國語と佛教 社會事業と佛教 死生達觀と佛教 倫理・法治・社會信念と佛教 餘録)

國民道德本義

河野省三著

昭和七 四六判 三七二頁 天地書房 二・五〇
人と國家 日本民族の特色 我が建國の精神 我が國體の精華 神道の本義 神社と敬神生活 武士道の特質 忠君愛國の至誠 日本精神の發揮 國民生活の訓練 國民性格の陶冶 日本民族の理想 我が國體の基礎觀念 明治時代の力 現代國民思想に對する考察

國民道德概論

池岡直孝著

昭和七 菊判 三一頁 章華社 二・三〇
國民道德の意義 國民道德研究の必要 國民道德の研究の方面並に必要なる諸科學 國民道德の成因 國家の理論 我が國體 國民道德の發展 國史と國民道德 現代生活と國民道德 西洋思想の批判 日本國家の理想

國民道德論概要

互理章三郎著

昭和七 菊判 三八八頁 大成書院 二・五〇

道德の原理 個人と社會 社會價値の創造と其の原理 國家 國家の倫理的意義 國家日本 國民道德の意義及び其の特質 國民道德と國民の實生活

日本道德要義

深作安文著

昭和八 菊判 一六九頁 文光社 一・三〇
社會生活 國家の意義 國家の本質 我が國の實相 國民道德の意義 我が國民道德(其の規定的條件 神道と國民道德 武士道と國民道德) 我が家族制度と國民道德 我が國體と國民道德 思想問題

現代の國民道德

大杉謹一著

昭和一〇 四六判 三〇六頁 明治圖書株式會社 二・二〇
最近國民道德研究の必要 國民道德の意義の問題 我が國民道德の特質 我が國民道德の諸要素 明治以後我が國民思想の變遷 日本精神と國民道德 詔勅と國民道德 聖勅と教育者

國民道德の體系

伊藤千眞三著

昭和一〇 菊判 四二六頁 大明堂 二・五〇
國民道德の意義 國民道德と國家 斯學研究の必要 國民教育の根基 國民道德の基礎 斯學研究の方法 傳承道德の意義 國民固有の道德 神話と國民道德 祖先崇拜の觀念 家族制度の發達 神道と國民道德 國體觀念の發達 武士道の發達 支那文明の影響 印度文明の影響 西洋文明の影響 世界文化の恩恵 現代思想の意義 最近の世界思潮 現代の道德問題 日本精神の高潮

倫理の主眼と國民道德の發達

互理章三郎著

昭和一一 菊判 二一七頁 中文館 一・二〇
人格の自己創造と道德生活 行爲 品性 理想 良心 良心の發展 國民の風俗 國民道德と國民精神 國民道德の發展と其の特質 上世の丈夫と女性 他民族との關係 上世の文化と外來思想 大陸文化の影響と武士道の發展 吉野室町時代等に於ける國民道德の變遷 唯一神道及び復古神道 江戸時代に於ける國民道德の思想の發展 武士道の精神及び庶民階級の道德 幕末に於ける國民精神の作興 明治時代に於ける國民道德の發展 現代國民と國民道德

武士道概説

田中義能著

昭和七 菊判 一三四頁 日本學術研究會 一・三〇
緒論(武士道の本質 武士道の起源) 武士道の發達(上代の武士道 武士道と外來思想 平安朝時代の武士道 鎌倉時代の武士道 室町時代の武士道 江戸時代の武士道) 武士道の教義(序言 忠節 禮儀 武勇 信義 質素 敬神 廉恥 克己 慈愛 婦徳) 結論(武士道の理想 武士道の理想と其要道 終結 武士道關係書目)

日本武徳論

互理章三郎著

昭和八 四六判 三三六頁 中文館 二・三〇
武國として我が國の根本問題 武徳の重要性 平和論と戰爭論 武徳と軍備と世界の平和 武徳主義と軍國主義 我が國の武徳と軍國主義 武

733

311

徳の養成 日本精神と日本武道 武士道と武藝の修行及び其の競技道徳 丈夫道及び武士道の淵深として古神道の研究

日本武士道詳論

磯野 清著

昭和九 菊判 四九九頁 目黒書店 三・八〇
名義から考察した武士道 武士道の理想(負けじ魂 面目 文武) 主君の道 武士の忠(忠の意義と對象 忠義の成立 武士の忠の特質 武士の忠と勤王思想 武士の忠の表現 不忠)

邦文武士道

新渡戸稻造著

昭和一〇 四六判 三〇〇頁 慶文堂 一・五〇
倫理體系としての武士道 武士道の淵深 義 勇氣 慈悲 禮節 至誠 名譽 忠義 武士の教育と訓練 克己 切腹と仇討の制度 刀は武士の魂 女性の教育と地位 武士道の感化 武士道の生命 武士道の將來 補遺

全日本國民に告ぐ

荒木貞 夫著

昭和八 菊判 二四九頁 大道書院 一・〇〇
現代日本の急務 全國民に訴ふ 勝利! 然らずんば死 苦しき赤字樂しき赤字 日本國民よ魂を持って 空前絶後の好機會 皇軍の眞精神 皇道 宣揚 日本國民の覺悟 日本民族の眞使命 偉人を語る 名將を語る 國民更生の根本義

建設 結論

身を捨てゝこそ

荒木貞 夫著

戦争と國民の覺悟 昭和一二 四六判 二二五頁 三笠書房 八〇
何故戦争は不可避か 非常時青年の使命 身を捨てゝこそ 名將訓 隨想錄
〔日本青年の道〕(昭和一二 年三月刊 三笠書房發行)ノ改題)

歐洲大戰に於ける英國民愛國心發露に就て

田中 國重著

昭和一二 菊判 一五頁 明倫會 非賣
序言 大學生の從軍 貴族の奮闘 戦役間の陸軍全徵募人員 將卒の損失 海軍 財政 食料制限 敵機襲來 篤志家の慈善事業 結論

世界大戰に於ける歐米青少年及婦人の活動 社會教育會編

昭和七 四六判 一四四頁 社會教育會 二〇
世界大戰 青少年の活動 婦人の活動

伯林脱出記

山田潤 二著

大正四 菊判 三一七頁 千草館 一・三〇
開戦 儒夫も亦起つ 游子好戦 男子皆兵 軍國の女子 軍國の小國民 國民精神

青年よ起て

松岡洋 右著

昭和八 四六判 二八九頁 日本思想研究會 九〇
脱黨聲明 革新斷行の秋 日本國民の新目標 世界變局と帝國の地位 青年と語る 沈黙を破りて 少年少女諸君へ ジュネーブより歸りて 滿洲事變記念日に際し國民に懇ふ

非常時に際し全國民に懇ふ

松岡洋 右著

昭和九 四六判 一四〇頁 文明社 五〇
非常時解消せず 非常時は世界的 歐米文明の没落 大和民族の大使命 日本特有の非常時 外交國難の正體 一大決心を要す 歐米の借り物を清算せよ 舉國一體の秋 興廢は五年間 その他

神道と國民生活

河野省 三著

昭和九 菊判 二二四頁 中文館 二二〇
さわやかな心 明御神を仰ぐ 青年團令旨奉戴十周年に際して 國民精神の修養 日本の國體と神社 やまと心 敬神の心 一體となりて 廣い活々した心 職業奉仕論 嗜みの生活 神道と國民生活 堅實なる國民精神 その他

眞日本主義國民改造と道義大亞建設

高松敏 雄著

昭和一二 菊判 二二三頁 日本塾 一・五〇
總論 本然の日本 眞日本の教育 日本國民産業軍隊 道義大亞細亞の

國民軍召集 幸福なる民 その他

法學博士阪谷男爵講話 東京女子高等師範學校編

歐洲戦争の吾人に與ふる教訓

大正五 菊判 三七頁 東京女子高等師範學校 非賣

國民的國家總動員 佐藤鋼次郎著

大正七 四六判 三六二頁 二酉社 一・四〇

歐洲戦争の原因及經過の概要 各交戰國の一般的觀察 英佛獨に於ける人員動員 英佛獨に於ける工業動員 英佛獨に於ける産業動員 英佛獨に於ける鐵道動員 英國に於ける船舶動員 獨國に於ける金融動員

733
311

昭和十二年十二月二十五日印刷
昭和十二年十二月二十七日發行

帝國圖書館編纂

印刷所 鐵道弘濟會印刷場

東京市下谷區上野山下町二番地

733
311

733
311

